

高崎市文化財調査報告書第500集

中里見根岸遺跡5

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

高崎市教育委員会
株式会社クスリのマルエ
技研コンサル株式会社

高崎市文化財調査報告書第500集

中里見根岸遺跡5

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

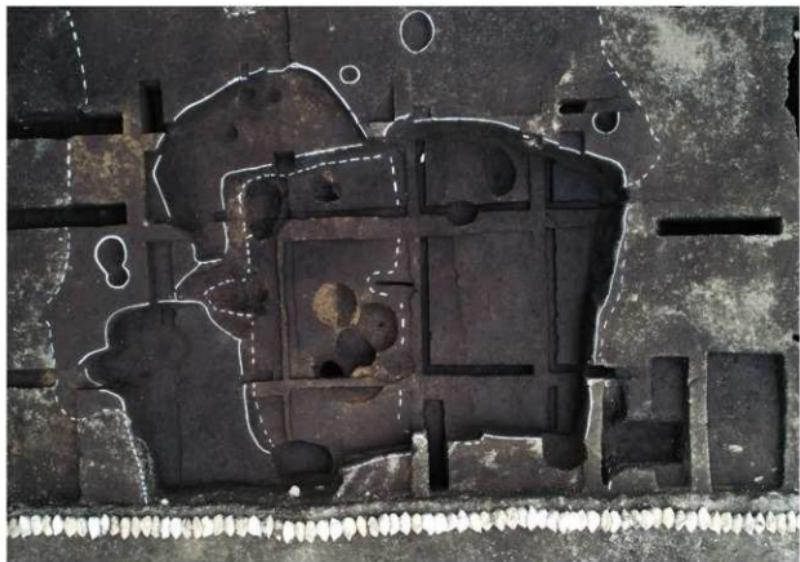
高崎市教育委員会
株式会社クスリのマルエ
技研コンサル株式会社



調査区全景（右下が北）



調査区全景（北東からの俯瞰）



S11～3・5全景（右下が北）



S17～9全景（右下が北）

例　　言

- 1 本報告書は株式会社クリのマルエ店舗建設に伴う中里見根岸遺跡第5次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。本書での遺跡呼称は、中里見根岸遺跡5と略す。
- 2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、株式会社クリのマルエの費用負担によって実施された。記して感謝の意を申し上げます。
- 3 遺跡の発掘調査および整理作業は、株式会社クリのマルエからの委託を受けた技研コンサル株式会社が、高崎市教育委員会文化財保護課の監理指導のもと実施した。
- 4 発掘調査及び整理事業の体制は下記の通りである。

遺跡名　　中里見根岸遺跡第5次（中里見根岸遺跡5）
市遺跡コード　868
遺跡所在地　群馬県高崎市中里見町字根岸173・1、174
監理指導　高崎市教育委員会文化財保護課
発掘・整理担当　松村春樹（技研コンサル株式会社）
調査員　岡野　茂　丸山和浩　曾根　裕（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間　令和5年3月20日～令和5年6月6日
整理事業期間　令和5年6月2日～令和5年11月30日
調査面積　715 m²

発掘調査参加者及び整理作業参加者は次の通りである。

大川明子（技研コンサル株式会社）

安藤三枝子　飯田真也　池田正恵　一條美樹　岡田秀夫　岡部四郎　小田切幹緒　川野京子　木暮朱実
黒崎香織　小池初美　木暮知二　児玉慶治　近藤益美　櫻井未来　佐藤文江　静野瑞彦　菅野　藍
須田藍士　曾根良美　立川千栄子　田所順子　田中雄大　田村道文　中嶋香織　平井国栄　平澤小夜子
福田邦弘　細野竹美　松本兼太郎　丸井来夏　吉浦英和

- 5 本書の編集は松村が行い、原稿執筆はIを高崎市教育委員会文化財保護課が、他を松村が担当した。
- 6 発掘調査で出土した遺物および図面等の資料は、一括して高崎市教育委員会で保管されている。
- 7 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

凡　　例

- 1 掘図中に使用した北は座標北を示し、座標については世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用した。
- 2 掘図に国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『高崎』『前橋』、高崎市発行1/2,500都市計画図を使用した。
- 3 土層および遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修）に掲げる。
- 4 遺構名称は、堅穴建物跡：SI、溝跡：SD、畠跡：SN、井戸跡：SE、土坑：SK、ピット：SPである。
- 5 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。
　　遺構　堅穴建物跡、溝跡、畠跡、井戸跡、土坑、ピット・・・1/30、1/60、全体図・・・1/250
　　遺物　土器、・・・1/3、1/4　瓦製品、・・・1/4　鉄製品、・・・1/2、1/3　石製品、・・・1/3
　　土製品、・・・1/2

6 本文及び表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

7 遺構・遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。その他各図トーンを参照されたい。

遺構 焼土範囲 : [■] 粘土範囲 : [▨] 挖削面下 : [▨▨▨]
遺物 須恵器（還元焰）断面 : [■] 須恵器（酸化焰）断面 : [□] 灰釉陶器断面 : [▨]
黒色処理 : [■] 煤付着範囲 : [■] 灰釉施釉範囲 : [▨] 研磨範囲 : [▨]

8 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

浅間 A 軽石 (As-A) ··· 天明三年 (1783) 浅間山噴火による降下テフラ

浅間 B 軽石 (As-B) ··· 嘉承三年、天仁元年 (1108) 浅間山噴火による降下テフラ

浅間 C 軽石 (As-C) ··· 3世紀後葉～4世紀初頭の浅間山二ッ岳噴火による降下テフラ

目 次

巻頭図版

例言・凡例

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	3
III	調査方針と経過	6
IV	基本土層	7
V	検出された遺構と遺物	9
1	堅穴建物跡	9
2	溝跡	11
3	竪跡	12
4	井戸跡	12
5	土坑・ビット	12
VI	まとめ	43

挿図目次

第1図	遺跡の位置	1	第18図	S14 (2)	24
第2図	高崎の地質	2	第19図	S17～9 (1)	25
第3図	周辺遺跡図	4	第20図	S17～9 (2)	26
第4図	調査区位置図	6	第21図	S17～9 (3)	27
第5図	基本土層	7	第22図	S110 (1)	28
第6図	全体図	8	第23図	S110 (2)	29
第7図	調査区トレントA～H	13	第24図	S111	30
第8図	調査区トレントI～L	14	第25図	SD1	31
第9図	調査区トレントM～Q	15	第26図	SN1・2, SE1～3	32
第10図	S11 (1)	16	第27図	SK1～5・7・9～12	33
第11図	S11 (2)	17	第28図	SP1～20	34
第12図	S12・5 (1)	18	第29図	S11～3出土遺物	35
第13図	S12・5 (2)	19	第30図	S14・5出土遺物	36
第14図	S12・5 (3)	20	第31図	S15出土遺物	37
第15図	S13 (1)	21	第32図	S15出土遺物	38
第16図	S13 (2)	22	第33図	S110・11, 遺構外出土遺物	39
第17図	S14 (1)	23	第34図	堅穴建物跡実測図	44

表目次

第1表 周辺道路一覧表.....	5 第3表 土坑・ピット一覧表.....	42
第2表 出土遺物観察表.....	40	

写真図版目次

PL.1 調査区全景（北西から）	PL.8 SI11全景（南西から）
基本土層A（南東から）	SI11カマド掘り方全景（南西から）
基本土層B（南東から）	SD1断面（南西から）
基本土層C（北西から）	SN1・2全景（北西から）
PL.2 SI1全景（北西から）	SD1全景（北東から）
SI1掘り方全景（北西から）	SN1全景（北西から）
SI1カマド全景（北西から）	SN2全景（北西から）
SI1カマド掘り方全景（北西から）	PL.9 SE1断面（北東から）
SI2遺物出土状況（北西から）	SE1全景（南西から）
SI2全景（北西から）	SE2断面（南東から）
SI2D1全景（北西から）	SE2全景（北西から）
SI2D2全景（南西から）	SE3石棟出土状況（南西から）
PL.3 SI3全景（西から）	SE3全景（南西から）
SI3掘り方全景（西から）	SK1全景（西から）
SI3カマド全景（西から）	SK2全景（東から）
SI3カマド掘り方全景（西から）	PL.10 SK3全景（西から）
SI4全景（北西から）	SK4全景（南西から）
SI4掘り方全景（北西から）	SK5全景（南西から）
SI4カマド全景（北西から）	SK7全景（南西から）
SI4カマド掘り方全景（北西から）	SK9全景（北西から）
PL.4 SI5全景（北西から）	SK10全景（西から）
SI5掘り方全景（北西から）	SK11全景（北東から）
SI5カマド全景（北西から）	SK12全景（南西から）
SI5カマド掘り方全景（北西から）	PL.11 SP1全景（西から）
SI5棚状施設（北西から）	SP2全景（西から）
SI5D1遺物出土状況（北西から）	SP1・2全景（西から）
SI5D2粘土検出状況（北西から）	SP3全景（西から）
SI5D2粘土断面（北西から）	SP4全景（西から）
PL.5 SI5D5粘土検出状況（北西から）	SP5全景（西から）
SI5D5粘土断面（北西から）	SP6全景（西から）
SI7全景（北西から）	SP7全景（西から）
SI7掘り方全景（北西から）	PL.12 SP8全景（西から）
SI7カマド全景（北西から）	SP9全景（西から）
SI7カマド石材検出全景（北西から）	SP10全景（西から）
SI7P1全景（南西から）	SP11全景（西から）
SI7D1全景（北西から）	SP12全景（西から）
PL.6 SI8全景（北西から）	SP13全景（東から）
SI8掘り方全景（北西から）	SP14全景（南西から）
SI8D1全景（北西から）	SP15全景（南西から）
SI8D2全景（南西から）	PL.13 SP16全景（南西から）
SI9全景（北東から）	SP17全景（南西から）
SI9棚道部遺物出土状況（北西から）	SP18全景（南西から）
SI9カマド全景（北東から）	SP19全景（南西から）
SI9カマド掘り方全景（北東から）	SP20全景（北西から）
PL.7 SI10全景（北西から）	調査風景（南東から）
SI10カマド遺物出土状況（北西から）	調査風景（北西から）
SI10カマド遺物出土状況（北西から）	調査風景（東から）
SI10カマド掘り方断面（北西から）	PL.14 遺物写真
SI10D1全景（北西から）	PL.15 遺物写真
SI10D2全景（北西から）	PL.16 遺物写真
SI10D3全景（北西から）	
SI10D4・6・7全景（北西から）	

参考文献

論文等

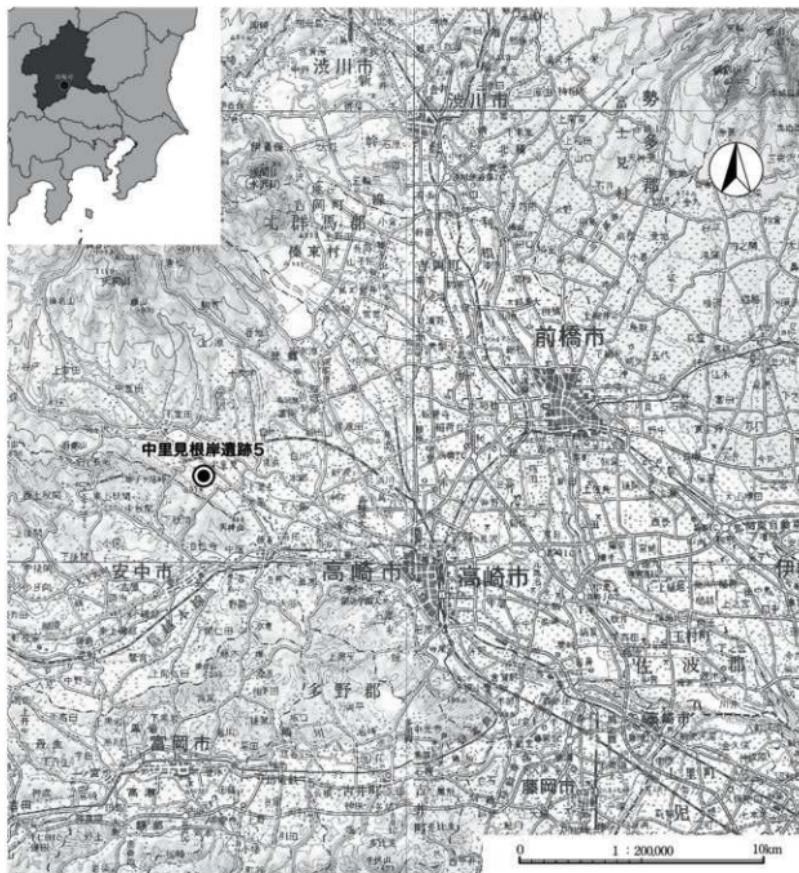
- 里見村誌編纂委員会 1960 「里見村誌」
群馬県教育委員会 1989 「群馬県の中世城館跡」
東国土地研究会 1990 「東国土地研究」
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991 「埼玉考古学論集」設立10周年記念論文集
安中市市史編さん委員会 2001 「安中市史」 第四巻 原始古代中世資料編
椎名町誌編さん委員会 2007 「椎名町誌」 自然編
椎名町誌編さん委員会 2010 「椎名町誌」 資料編1 原始古代
椎名町誌編さん委員会 2011 「椎名町誌」 通史編 上巻

発掘調査報告書

- 群馬県教育委員会 1982 「戸谷道路」
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 「中里見道路群」
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 「上里見新井道路」
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2019 「下里見宮谷戸道路4」
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2022 「上大島御伊勢道路・薬師・萬行道路」
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2023 「下里見天神前道路」

I 調査に至る経緯

令和4年9月中旬、事業者から高崎市中里見町において計画している店舗建設工事に先立ち、埋蔵文化財の照会が高崎市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、工事に際し協議が必要の旨、回答した。令和4年10月18日、市教委に試掘確認調査依頼書が提出され、令和4年12月5日に試掘確認調査を実施し、堅穴建物跡等の遺構を確認した。この結果を踏まえ、開発者と市教委で遺跡の保存に係る協議を行ったが、現状での遺跡保存は困難となり、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。遺跡名は「中里見根岸遺跡第5次」とし、発掘調査は、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に順じ、令和5年3月1日、事業者・技研コンサル株式会社との間で契約締結を行い、調査指導監理は市教委が実施することとなった。



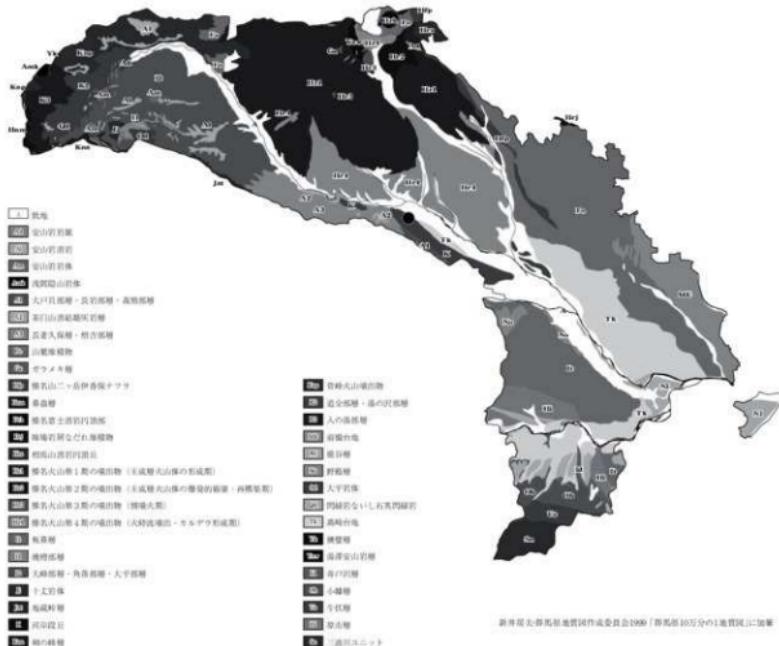
第1図 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境（第2図）

中里見根岸遺跡第5次は高崎市中里見町に所在し、高崎市街地の西北西約11kmに位置する。北西の榛名山と南西の秋間丘陵との間にあり、800m北には鼻曲山に端を発する烏川が南東へ下り利根川と合流する。現況は榛名地域の台地を開析する河川によって形成された谷底平野と烏川周辺の低地帯では水田が営まれており、下位段丘面上には住宅地が広がる。

本遺跡の周辺地形は約5万年前に榛名山にて発生した室田火碎流によって形成された火碎流台地、谷底平野、烏川周辺の低地帯と、右岸に形成された河岸段丘に分類される。室田火碎流台地は烏川を初めとした河川に浸食され、左岸では十文字台地とその東に本郷台地として、右岸では中位段丘面を覆う里見台地に分かれている。河岸段丘は上位・中位・下位に分かれており、上位・中位段丘面の形成時期は不明とされているが、室田火碎流が上位段丘面にて停止していること、中位段丘面が室田火碎流に覆われていることから、火碎流発生以前には形成されていたと考えられている。下位段丘面は上部ローム最下部に室田軽石が堆積していることから2.4万年～2.6万年前に形成されたことが分かっており、下位段丘面と低地帯では現在でも2～3mの段差がみられる。本遺跡はこの烏側右岸の下位段丘面上、里見台地斜面との境に位置する。



第2図 高崎の地質

2 歴史的環境（第3図、第1表）

旧石器時代

旧石器時代遺跡の調査例は少ない。三ッ沢中遺跡（22）からはAT層直下からブロック群が検出され、挿図の範囲外であるが本遺跡から東に2.5kmにある本郷鶴来遺跡ではAs-YP直下から剥片が確認されている。

縄文時代

鳥川左岸の十文字台地上では三ッ沢中遺跡（22）から敷石住居が、高浜向原遺跡（23）から前期の建物跡、高浜向原遺跡と高浜川を挟んで東に位置する高浜広神遺跡から建物跡や埋甕が検出するなど多くの遺構が確認され、縄文時代の居住適地と指摘される。右岸の低地帯では中里見中川遺跡（9）から建物跡が1軒。下位段丘面では下里見天神前遺跡（15）から建物跡が1軒、中里見根岸遺跡（3）からは遺物のみだが晩期の遺物が大量に検出し、中通遺跡（13）からも遺物の出土が確認されている。里見台地上では中里見原遺跡（4）から土坑1基、上位段丘面では堂尾根遺跡（30）から前期の土器が出土している。総じて右岸では十文字台地と比べると遺構の検出が少ない。

弥生時代

弥生時代では縄文時代に比べると遺構数が少なくなる。十文字台地上では三ッ沢中遺跡（22）から土坑が、里見台地上では下里見上ノ原・中原遺跡（14）から断面の観察のみだが集落が確認され、本遺跡から北西に2.3kmにある上神遺跡では遺構が確認できないが遺物が検出されている。遺構の密度としては東側にある本郷台地付近の方が高いようである。

古墳時代

古墳時代になると遺跡が増加する。三ッ沢中遺跡（22）では後期の建物跡が検出されている。また古墳の築造も盛んで、里見古墳群としてI～V群に分けられている。I群として下里見中原、下ノ原、南原地内の里見台地。II群には下里見堂尾根、若林、猪ノ毛地内の上位段丘面。III群に下里見天神通り、北村、宮谷戸地内の下位段丘面。IV群として下里見諒訪山、中里見原南、原北、下ノ原地内の里見台地。V群には中里見塚崎、新井地内の下位段丘面にて確認されている。周辺の古墳としては6世紀前半の帆立貝形古墳として下里見諒訪山古墳（D）が、7世紀末の円墳としては堂尾根2号墳（E）と伊勢殿山古墳（F）では共に金銅製耳飾が出土している。周囲の検出のみにとどまるが、上里見新井遺跡（6）、下里見天神前遺跡（15）でも古墳の存在が確認されている。下里見天神前遺跡では樹立・配列されず、未使用で将棋倒しのような状態で出土した埴輪に注目している。

生産遺構としては左岸の低地帯にある神戸岩下遺跡（20）、右岸では中川B区遺跡（8）、中里見中川遺跡（9）にてAs-C下の水田が検出されている。東に所在する本郷台地にも集落や、4世紀前半に築造されたと推定される前方後円墳として本郷大塚古墳も存在する。

奈良・平安時代

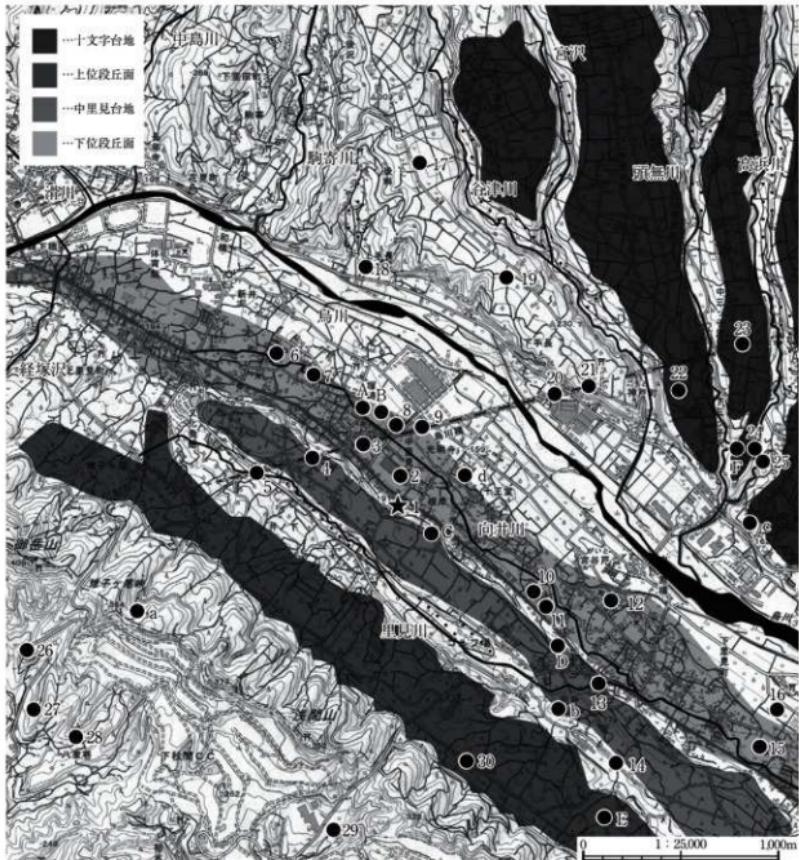
古墳時代から引き続き平安時代を中心に多くの集落・生産域が確認される。手長遺跡（17）、駒寄遺跡（18）、上・下高田原遺跡（19）、神戸宮山遺跡（21）では遺構が確認されている。古墳時代より踏襲しAs-B下から検出される条里型水田として根岸遺跡（2）、中里見根岸遺跡（3）、中川B区遺跡（8）、中里見中川遺跡（9）、根岸II・III遺跡、神戸岩下遺跡（20）など多数見受けられ挿図外にもAs-B下水田の検出が多く見られる。本遺跡でも検出したが、As-B下の畠跡も中通遺跡（13）で検出されている。その他の生産遺構としては戸谷遺跡（26）では製鉄遺構、堆子ヶ尾遺跡（27）では7世紀末～8世紀にかけて、二反田遺跡（29）では8世紀前半～9世紀中葉にかけての須恵器窯跡、八重巻遺跡（28）では山王寺の複弁七弁蓮華文軒丸瓦や三重弧文軒平瓦が生産された7世紀後半の瓦窯跡が検出されている。本地域の南西に広がる秋間丘陵でも7～9世紀にかけて須恵器や瓦を焼成していた秋間古窯跡群が存在している。

中世

中世以降の調査例は少ないが、雄郷城（a）と里見城（b）は里見氏により、坂上城（c）は長野氏により永禄年間（1588年～1570年）に築城されたといわれている。

近世

近世の調査例も少ない。上大島御伊勢遺跡（16）と本郷溝行原遺跡、本郷鶴楽遺跡にてAs-Aの復旧坑が検出されており、上大島御伊勢遺跡では火葬墓も検出している。挿図外だが若田坂上遺跡にてAs-A下の畠跡とAs-A処理坑も検出されている。



第3図 周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡の概要	報告書・参考文献
1	中里見根岸遺跡5	本報告書掲載	-
2	根岸遺跡	As-B下水田	2010『榛名町誌 資料編1原始古代』
3	中里見根岸遺跡	As-B下水田、鍛冶炉	2000『中里見遺跡群』
4	中里見原遺跡	鍛冶跡、里見庵寺基壇	タ
5	上里見井ノ下遺跡	炭窯跡	タ
6	上里見新井遺跡	古墳周掘	2009『上里見新井遺跡』
7	田中遺跡	縄文、弥生、平安時代	2010『榛名町誌 資料編1原始古代』
8	中川B区遺跡	As-C・As-B下水田	タ
9	中里見中川遺跡	縄文晩期包含層、As-B下水田	2000『中里見遺跡群』
10	根岸II遺跡	As-B下水田	2010『榛名町誌 資料編1原始古代』
11	根岸III遺跡	As-B下水田	タ
12	下里見宮谷戸遺跡4	方形周溝墓、配石遺構	2019『下里見宮谷戸遺跡4』
13	中通遺跡	As-B下畠跡	2010『榛名町誌 資料編1原始古代』
14	下里見上ノ原・中原遺跡	縄文時代前期・弥生時代中後期	タ
15	下里見天神前遺跡	古墳3基、古墳時代集落	2023『下里見天神前遺跡』
16	上大島御伊勢遺跡	江戸時代火葬墓	2022『上大島御伊勢遺跡 薬師・萬行遺跡』
17	手長遺跡	平安時代	2010『榛名町誌 資料編1原始古代』
18	駒寄遺跡	平安時代	タ
19	上・下高田原遺跡	平安時代	タ
20	神戸岩下遺跡	As-C・As-B下水田	タ
21	神戸宮山遺跡	平安時代集落	タ
22	三ツ沢中遺跡	旧石器～平安時代集落、江戸幕帳	タ
23	高浜向原遺跡	平安時代水田	タ
24	中尾根遺跡	縄文・古墳・平安・中世土器	タ
25	欠ノ上遺跡	平安時代総柱建物	タ
26	戸谷遺跡	製鉄遺構	2001『安中市史 第四巻』
27	雉子ヶ尾遺跡	須恵窯跡	タ
28	八重巻遺跡	7世紀後半瓦窯跡	タ
29	二反田遺跡	須恵窯跡	タ
30	堂尾根遺跡	縄文時代	2010『榛名町誌 資料編1原始古代』
A	塚崎古墳	古墳時代後期、円墳か	タ
B	泉福寺古墳	古墳時代後期、円墳か	タ
C	赤城山古墳	6世紀代、円墳か、藤岡産埴輪	タ
D	下里見源訪山古墳	6世紀前半帆立貝形古墳	タ
E	堂尾根2号墳	7世紀末円墳、金銅製耳飾	タ
F	伊勢殿山古墳	7世紀末円墳、金銅製耳飾	タ
a	雉郷城	中～近世	1988『群馬県の中世城館跡』
b	里見城	里見氏	タ
c	坂上城	長野氏、永禄年間（1558～1570）	タ
d	里見館	里見氏	タ

III 調査方針と経過

今回の発掘調査は、市教委が実施した試掘調査の結果に基づき、開発に伴い現状保存が不可能な部分を対象として調査をした。調査面積は715m²である。調査面は1面で、古代の集落跡を主な調査対象とした。調査記録の座標については、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用している。

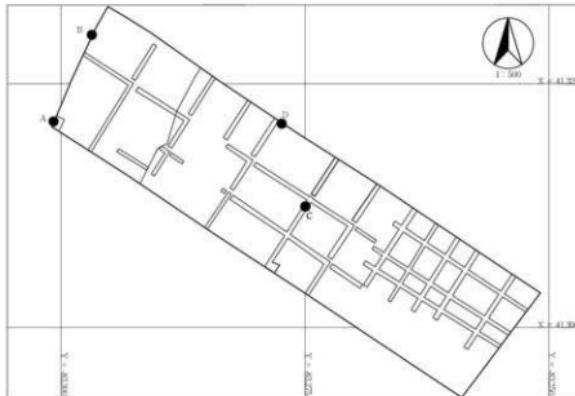
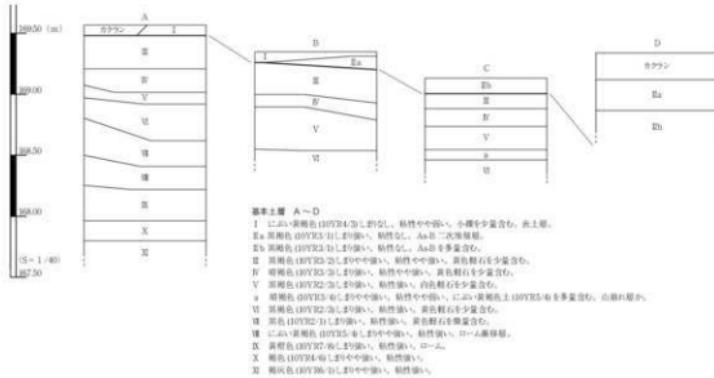
発掘調査は令和5年3月20日より周辺整備を開始し、3月27日から0.45mバックホウを1台使用して調査区の北西側より表土掘削を開始した。調査区は全体的に搅乱を受けており、特に北西側はその傾向が強く他より30cm程度を下げる。搅乱により遺構確認が困難だったため、調査区全体にサブトレントを設定(A~Q)し、断面と底面を合わせて遺構確認を行った。個々の搅乱にもサブトレントを入れ、深い場合は遺構が破壊されていると判断、浅い場合は搅乱を取り除き遺構確認をするとして、搅乱の下も遺構の有無を確認した。X=41.295 ~ 41.305、Y= -83.260 ~ -83.260 地点は試掘結果及び表土掘削時にバックホウにて、搅乱の深さが1m以上あることを確認したためサブトレントを入れなかった。以下は人力による箇所を用いて遺構を検出し、遺構の掘り下げ・精査には移植コテを用いた。調査区北東部ではAs-B混土の堆積があり、平安時代の遺構はその下に存在した。井戸跡(SE 1~3)は深度が2mを越すことが予想されたため、途中で掘り止めた。5月17日に株式会社サムシングにより土壤サンプルの採取が行われた。5月31日にドローンによる空中写真撮影を行い、同日市教委による完了検査を受けた。6月6日に埋め戻し作業を終了し現地での発掘作業を完了した。6月2日より整理作業を開始し、11月30日に報告書を刊行した。調査区が斜面地直下のため、周辺からの雨水流入による水没を心配したが、遺跡地も斜面のため調査区内は水はけがよく排水作業に苦労は無かった。

調査遺構の記録については、測量の平面図はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図は一部オルソフォトを併用して図化している。写真記録は35mmフィルムカメラ(モノクロ)とデジタルカメラの2種類を使用した。調査区全景撮影についてはドローンにて実施した。報告書の作成に際しては、DTPの手法を用いた。遺構図については、原図の作図から報告書掲載の編集図に至るまで一貫してデジタルデータを用い、遺物図については、断面形の計測と外面調整の描画にキーエンス社製3Dスキャナー(VL-300)を多用し、デジタルトレースを行った。遺物写真の撮影にはデジタルカメラを用いた。データ化されたこれら一切の調査記録を、レイアウトソフトを用いて組版し、刊行した。

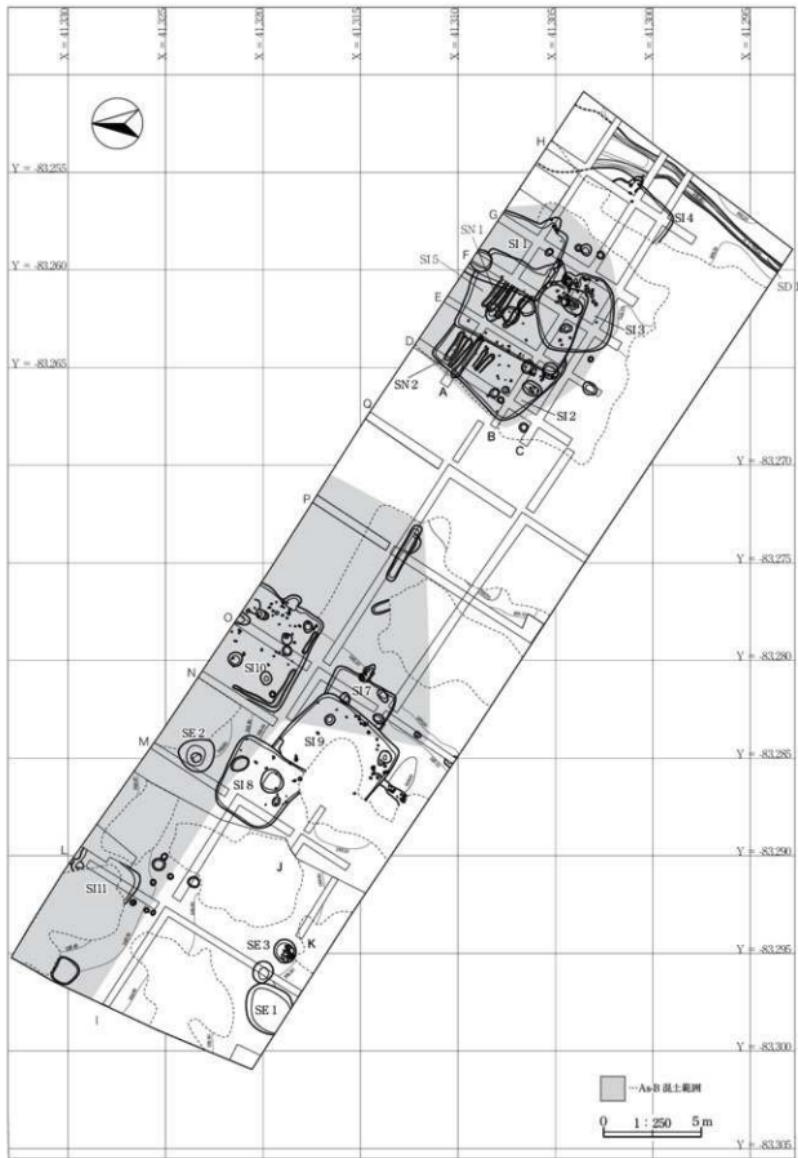


IV 基本土層

調査区内は以前店舗が営まれていたため全体的に搅乱を受けている。また、搅乱の無い箇所には遺構があるのでも、基本土層の確認場所として深掘りを入れたのは西隅の一箇所（基本土層A）だけだが、調査区に入れたサブトレンチ（I～Q）と調査区壁面の土層を観察し補助的に土層の確認を行った。調査区は南西の里見台地から北東の鳥川による低地帯に向けて下る下位段丘面の斜面地であり、土層もそれに沿って斜めに堆積する。調査区の北東半部ではⅠ層とⅢ層の間にⅡb層としてAs-B混土の堆積を確認した、その直下では遺物が散見できる。Ⅱ層は所により細分でき、Ⅱa層はAs-Bの二次堆積層である。調査区の北西から中央部分と南東ではⅣ層とⅤ層の間に、a層としてロームブロックと見られるにぶい黄褐色土が混じる層を確認した。ローム層として認識できる層位はⅦ層からであるので山崩れによるものと判断したが、同様の堆積は周辺の調査事例では確認できなかつた。遺構確認面はⅢ層上面とした。



第5図 基本土層



第6図 全体図

V 検出された遺構と遺物

1 壑穴建物跡

SI 1 (第 10・11・29 図、PL. 2)

位置 調査区南東 (X = 41,304 ~ 41,310, Y = - 83,256 ~ - 83,262) 主軸方向 S - 55° - E 規模 東西軸 3.77 m・南北軸 (3.91) m・壁高 0.50 m。面積 (14.1) m² 床面 カマド前部に硬化が確認できる。重複 SI 3・5、SN 1、SP 4 と重複。新旧関係は SI 5 → SI 3 → 本遺構 → SN 1、SP 4。カマド 東壁の南角寄りに 1 基検出。確認長 0.79 m・燃焼部幅 0.49 m。右袖に構築材と判断できる石材を確認。貯蔵穴確認できず。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 白色軽石と褐灰色粘質土小ブロックを含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 カマド燃焼部から灰釉陶器碗の破片 (1)、カマド掘り方から酸化焰焼成の須恵器坏が 2 点 (2・3)、覆土中から土錘 (4) を図示。2・3 は SI 3・SI 8 にも同様の坏が出土しており、比較するとこちらの方が底部の切り離し方などがやや粗雑か。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 11 世紀前半と推定される。

SI 2 (第 12 ~ 14・29 図、PL. 2)

位置 調査区南東 (X = 41,304 ~ 41,312, Y = - 83,261 ~ - 83,268) 主軸方向 S - 54° - E 規模 東西軸 3.84 m・南北軸 5.99 m・壁高 0.55 m。面積 23.3 m² 床面 地山床。重複 SI 5、SN 1・2、SK 1、SP 7 ~ 9 と重複。新旧関係は、本遺構 → SI 5 → SN 1・2、SK 1、SP 7 ~ 9。カマド 確認できず。本遺跡の傾向から東カマドと想定されるが、SI 5 に削平されたか。貯蔵穴 確認できず。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 白色軽石を含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 覆土中から須恵器蓋 (1・2)、須恵器坏 (3 ~ 5)、土錘 (6 ~ 11)、須恵器皿 (12・13) を図示。12・13 は本遺構の時期と比べると新しい遺物だが、これは斜面地ゆえの流れ込みや、重複する SN 1・2 などの遺構に攪拌され混入したと判断し、資料として図示した。また、本遺構と重複する搅乱から出土した須恵器を遺構外遺物として図示した (遺構外-1)。本遺構からは土錘が他遺構に比べ多く出土し、また図示には至らなかったが、須恵器の出土も多いため、他の壘穴建物跡と違う性格を持つ可能性がある。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 9 世紀前半と推定される。

SI 3 (第 15・16・29 図、PL. 3)

位置 調査区南東 (X = 41,302 ~ 41,312, Y = - 83,261 ~ - 83,268) 主軸方向 N - 72° - E 規模 東西軸 3.55 m・南北軸 3.96 m・壁高 0.30 m。重複する遺構と比べるとやや小型であるか。面積 13.1 m² 床面 カマド前部に硬化が確認できる。重複 SI 1・5、SP 5 と重複。新旧関係は、SI 5 → 本遺構 → SI 1 → SP 5。カマド 東壁の中央に 1 基検出。確認長 0.72 m・燃焼部幅 0.35 m。カマドを構築する石材がほぼ残存しており、支脚も確認できた。周囲の壘穴建物はおむね南東に軸をとるが、本遺構は軸がほぼ真東を向いている。貯蔵穴 確認できず。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 白色軽石と褐灰色粘質土小ブロックを含む黒褐色土を充填して構築されている。出土遺物 カマド内から灰釉陶器輪花碗 (1)、床面直上から須恵器高台付塊 (2)、カマド覆土から酸化焰焼成の須恵器坏 (3・4) を図示。1 は SI 8 出土の碗と遺構間接合した。2 は酸化焰焼成氣味で高台が高い。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 10 世紀後半と推定される。

SI 4 (第 17・18・30 図、PL. 3)

位置 調査区南東 ($X = 41,298 \sim 41,302$, $Y = - 83,255 \sim - 83,159$) 主軸方向 S - 55° - E 規模 東西軸 (2.17) m・南北軸 3.70 m・壁高 0.25 m。面積 (5.7) m² 床面 カマド前部に硬化が確認できる。
重複 SD 1 と重複。新旧関係は、SD 1 → 本遺構。カマド 南東壁の北寄りに 1 基検出。確認長 0.68 m・燃焼部幅 0.32 m。貯蔵穴 確認できず。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 部分的に黒褐色土を充填して構築している。出土遺物 カマド前部から酸化焰焼成の塊 (1)、煙道及びカマド内から羽釜 (2・3)、カマドから土釜 (4)、カマドとカマド掘り方から平瓦 (5) を図示。時期 出土遺物の傾向から 10 世紀中葉と推定される。

SI 5 (第 12・14・30・31 図、PL. 4・5)

位置 調査区南東 ($X = 41,303 \sim 41,311$, $Y = - 83,258 \sim - 83,266$) 主軸方向 S - 56° - E 規模 東西軸 (4.41) m・南北軸 5.98 m・壁高 0.58 m。面積 24.8 m² 床面 カマド前部に硬化が確認できる。重複 SI 1 ~ 3・SN 1・2・SK 1 と重複。新旧関係は、SI 2 → 本遺構 → SI 3 → SI 1 → SN 1・2・SK 1。カマド 南東壁のやや南寄りに 1 基検出。確認長 1.20 m・燃焼部幅 0.34 m。右側に粘土で構築した棚状施設を持つ。発掘調査時は SI 6 のカマドと軸が異なり、SI 6 のカマドの方が深いため、竪穴建物跡が重複していると想定していたが、整理作業をすすめると遺物に時期差がなく、カマドの断面にも時期差を示す間層がないことから SI 5 と SI 6 は同一遺構と判断し、SI 6 を欠番とした。貯蔵穴 南隅から検出。長軸 1.20 m・短軸 0.74 m・深さ 0.42 m。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 にぶい黄褐色土を含む暗褐色土を充填して構築している。出土遺物 須恵器高台付塊 (1・17~19)、須恵器坏 (2~6)、土師器甕 (7・8)、羽口 (9)、砥石 (10)、土錘 (11~14)、灰釉陶器小瓶 (15)、須恵器蓋 (16)、須恵器塊 (20)、土師器塊 (21) を図示。1・4・6・10 は床面直上、8 はカマド内からの出土である。15~21 は本遺構の時期と比べると古い遺物であるが、出土位置が SI 2 との重複部分にあり出土位置が高いため、埋没過程の混入遺物として図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 9 世紀後半と推定される。

SI 7 (第 19~21・32 図、PL. 5)

位置 調査区中央 ($X = 41,313 \sim 41,317$, $Y = - 83,280 \sim - 83,284$) 主軸方向 S - 57° - E 規模 東西軸 (1.60) m・南北軸 3.55 m・壁高 0.23 m。面積 (6.3) m² 床面 カマド前部に硬化が確認できる。
重複 SI 9・SP11 と重複。新旧関係は、SI 9 → 本遺構 → SP11。カマド 南東壁の中央に 1 基検出。確認長 1.03 m・燃焼部幅 0.30 m。カマドを構築する石材がおおむね遺存しており、倒れているが支脚と見られる石材も確認した。貯蔵穴 南隅から検出。長軸 0.72 m・短軸 0.41 m・深さ 0.23 m。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 地山硬化床。出土遺物 覆土中から羽釜 (1) を図示。SI 4 の羽釜と比べるとつくりがシャープである。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 10 世紀前半と推定される。

SI 8 (第 19~21・32 図、PL. 6)

位置 調査区中央 ($X = 41,317 \sim 41,323$, $Y = - 83,283 \sim - 83,289$) 主軸方向 S - 58° - E 規模 東西軸 (4.02) m・南北軸 3.49 m・壁高 0.20 m。面積 13.8 m² 床面 地山床。重複 SI 9 と重複。新旧関係は、SI 9 → 本遺構。カマド 南東壁の中央に 1 基検出。確認長 (0.66) m・燃焼部幅 (0.37) m。貯蔵穴 確認できず。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 地山硬化床。出土遺物 床面直上から酸化焰焼成の須恵器坏 (1)、掘り方から円面鏡 (2)、覆土中から楕形漆 (3) を図示。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 10 世紀後半と推定される。

SI 9 (第 19 ~ 21・32 図、PL. 6)

位置 調査区中央 ($X = 41.313 \sim 41.320$ 、 $Y = -83.281 \sim -83.288$) 主軸方向 S - 38° - W 規模 東西軸 (4.20) m・南北軸 5.19 m・壁高 0.35 m。面積 19.3 m² 床面 カマド前部に硬化が確認できる。重複 SI 7・8 と重複。新旧関係は、本遺構 → SI 7 → SI 8。カマド 南西壁の南寄りに 1 基検出。確認長 (1.99) m・燃焼部幅 (0.51) m。遺構の調査着手時は他遺構の傾向と、焼土の広がり方から東カマドを想定していたが、焼土層は流れ込みで、カマドと捉えられる様な掘り込みも見られないため東カマドではないと判断した。煙道部分は元は SK 8 として調査していたが、出土遺物の傾向が本遺構と同様であり、カマドと連続していると判断したため SK 8 を欠番とした。貯蔵穴 南隅から検出。長軸 0.81 m・短軸 0.61 m・深さ 0.51 m。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 地山硬化床。出土遺物 土師器壺 (1 ~ 4)、土師器有段口縁壺 (5 ~ 7)、土師器鉢 (8) を図示。1・2 はカマド内から、3・4・7 は床面直上から出土した。5 はカマド付近の出土遺物と SI 8 と重複する部分の遺物が接合した。8 は床面直上出土と煙道部出土の遺物が接合した。有段口縁壺は 2 段で段が明瞭である。煙道部分からも土師器壺、有段口縁壺の破片が出土している。時期 出土遺物の傾向と重複関係から 6 世紀末 ~ 7 世紀初頭と推定される。

SI10 (第 22・23・32・33 図、PL. 7)

位置 調査区中央 ($X = 41.316 \sim 41.323$ 、 $Y = -83.276 \sim -83.283$) 主軸方向 S - 53° - E 規模 東西軸 5.43 m・南北軸 (4.20) m・壁高 0.85 m。面積 (21.5) m² 床面 カマド前部に硬化が確認できる。重複 SP12・13 と重複。新旧関係は、本遺構 → SP12・13 カマド 南東壁の南寄りに 1 基検出。確認長 0.77 m・燃焼部幅 0.61 m。北東壁にもカマドとみられる焼土と灰の堆積を検出したが、大部分が調査区外のため詳細は確認できず。貯蔵穴 確認できず。主柱穴 確認できず。壁周溝 南壁から西壁にかけて確認。

掘り方 白色軽石を含む暗褐色土を充填して構築している。出土遺物 灰釉陶器皿 (1)、須恵器皿 (2・3)、黒色土器皿 (4)、須恵器高台付壺 (5・6)、須恵器壺 (7)、土師器壺 (8)、刀子 (9)、土鍤 (10) を図示。4 は表裏に黒色処理を施している。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と推定される。

SI11 (第 24・33 図、PL. 8)

位置 調査区北西 ($X = 41.326 \sim 41.330$ 、 $Y = -83.289 \sim -83.293$) 主軸方向 N - 30° - E 規模 東西軸 (1.35) m・南北軸 3.44 m・壁高 0.30 m。面積 (5.1) m² 床面 地山床。重複 確認できず。カマド 北東壁の東寄りに 1 基検出。煙道の一部分は調査区外のため確認できず。確認長 (0.73) m・燃焼部幅 0.59 m。貯蔵穴 確認できず。主柱穴 確認できず。壁周溝 確認できず。掘り方 地山硬化床。出土遺物 須恵器壺 (1・2)、土師器壺 (3) を図示。2 は重複する擾乱からの出土である。3 は口縁部が「く」の字から「コ」の字へ変化する過程を示す。時期 出土遺物の傾向から 8 世紀末と推定される。

2 溝跡

SD 1 (第 25 図、PL. 8)

位置 調査区南東 ($X = 41.293 \sim 41.340$ 、 $Y = -83.251 \sim -83.261$) 主軸方向 N - 46° - E 規模 確認長 (12.59) m・上幅 0.63 m・下幅 0.32 m。形状 断面形状は台形状を呈する。南西から北東へ走行し、 $X = 41.299$ 、 $Y = -83.255$ 地点からは氾濫したかのように幅が広がる。重複 SI 4 と重複。新旧関係は、本遺構 → SI 4。出土遺物 土器の小片を出土しているが図示には至らず。しかし、本遺構近くの確認面より混入と推定される S 字状口縁台付壺の口縁部が出土したため、遺構外の遺物として図示 (遺構外 - 2・3)。時期 重複関係から 9 世紀代と推定される。

3 竜跡

SN 1 (第 26 図、PL. 8)

位置 調査区南東 ($X = 41,306 \sim 41,311$, $Y = - 83,260 \sim - 83,266$) 主軸方向 N - 54° - W 規模 突間の溝を 4 条検出した。確認長は $1.65 \sim 1.98$ m・幅 $0.2 \sim 0.3$ m・深さ $0.03 \sim 0.06$ m。突間は芯心で平均 0.38 m・一番離れている箇所は 0.64 m を計測した。重複 SI 2・5 と重複。新旧関係は SI 2 → SI 5 → 本遺構。出土遺物 土器の小片を出土しているが図示には至らず。時期 検出面と覆土の状況から 12 世紀以降と推定される。

SN 2 (第 26 図、PL. 8)

位置 調査区南東 ($X = 41,308 \sim 41,311$, $Y = - 83,263 \sim - 83,266$) 主軸方向 N - 57° - W 規模 突間の溝を 5 条検出した。確認長は $1.65 \sim 2.42$ m・幅 0.17 m ~ 0.31 m・深さ 0.02 m ~ 0.04 m。突間は芯心で平均 0.44 m を計測した。重複 SI 2・5 と重複。新旧関係は SI 2 → SI 5 → 本遺構。出土遺物 土器の小片を出土しているが図示には至らず。時期 検出面と覆土の状況から 12 世紀以降と推定される。

4 井戸跡

SE 1 (第 26 図、PL. 9)

位置 調査区北西 ($X = 41,318 \sim 41,321$, $Y = - 83,296 \sim - 83,300$) 規模 上端部は長軸 2.27 m・短軸 2.17 m・深さ (1.48) m。平面形状は楕円形で上端は逆ハの字に開く。重複 確認できず。出土遺物 土器の小片を出土しているが図示には至らず。時期 覆土中位に As-B を含むため、11 世紀後半と推定される。

SE 2 (第 26 図、PL. 9)

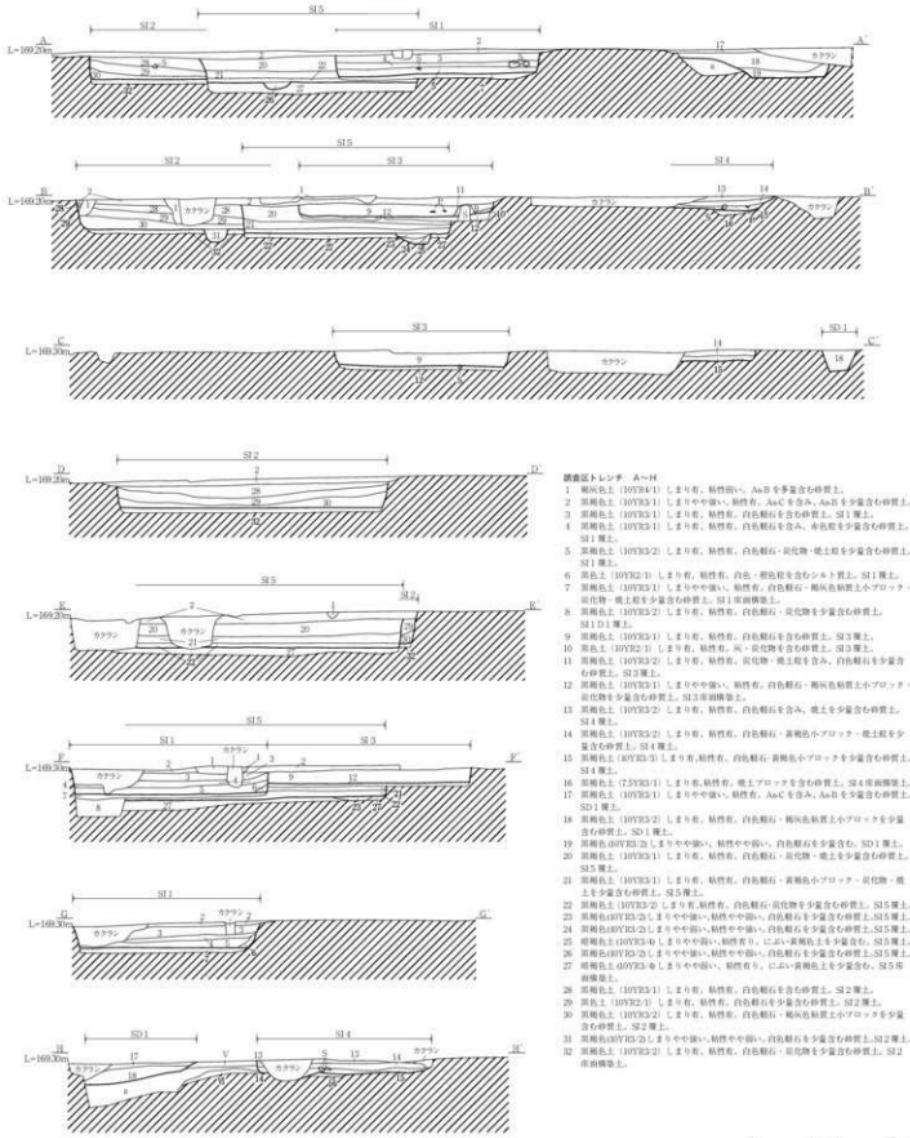
位置 調査区北西 ($X = 41,308 \sim 41,311$, $Y = - 83,263 \sim - 83,266$) 規模 上端部は長軸 1.74 m・短軸 1.68 m・深さ (1.64) m。平面形状は円形で上端は逆ハの字に開く。中段に大疊を検出。重複 確認できず。出土遺物 土器の小片を出土しているが図示には至らず。時期 覆土中位に As-B を含むため、11 世紀後半と推定される。

SE 3 (第 26 図、PL. 9)

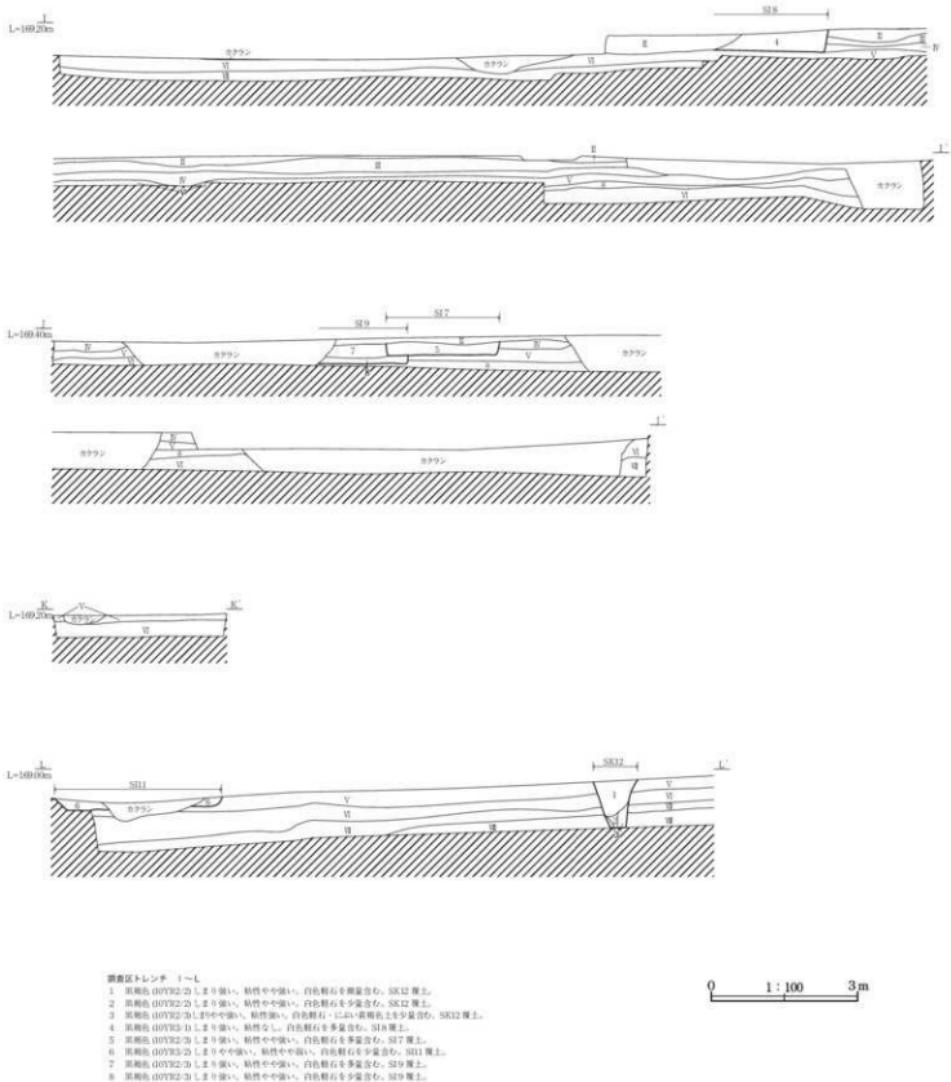
位置 調査区北西 ($X = 41,318 \sim 41,321$, $Y = - 83,296 \sim - 83,300$) 規模 上端部は長軸 1.11 m・短軸 1.08 m・深さ (1.31) m。平面形状は円形で上端は逆ハの字に開く。上層に疊群を検出。重複 確認できず。出土遺物 土器の小片を出土しているが図示には至らず。時期 覆土中位に As-B を含むため、11 世紀後半と推定される。

5 土坑・ピット (第 27・28 図、PL. 9 ~ 13)

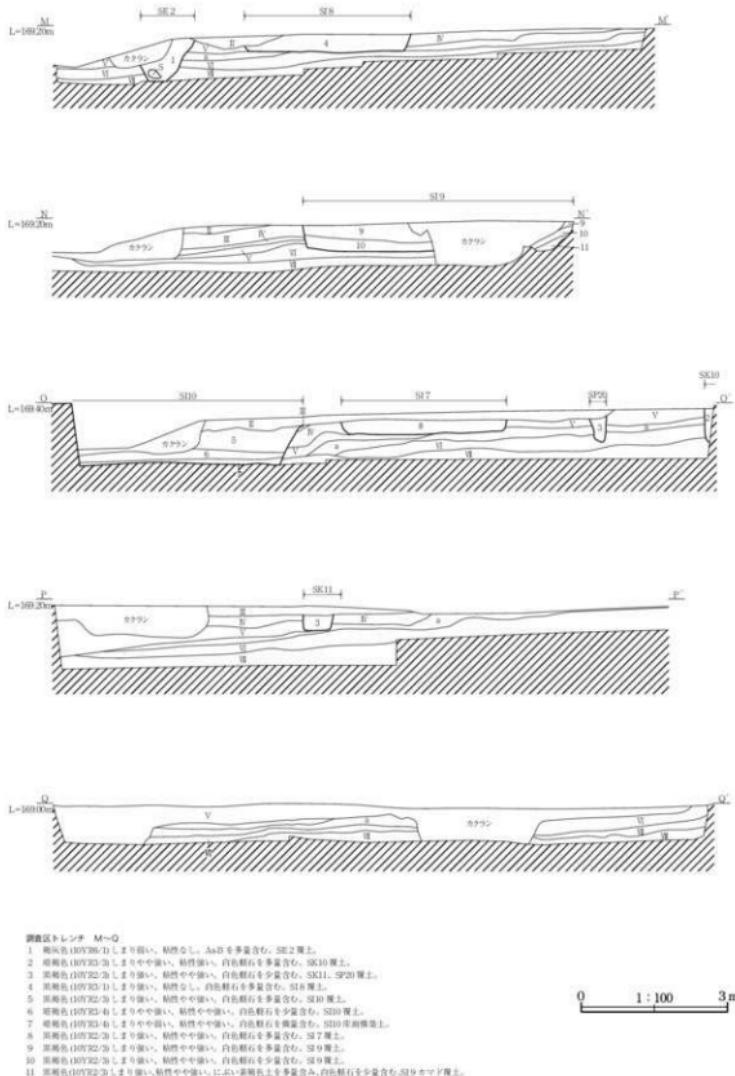
土坑は 12 基、ピットは 20 基が検出された。このうち、SK 6 は SE 3 に変更し、SK 8 は遺物の出土状況から当初は土器焼成坑と想定していたが、調査を進めた結果 SI 9 のカマドに変更したためそれぞれ欠番とした。検出された遺構は「第 3 表 土坑・ピット一覧表」を参照のこと。



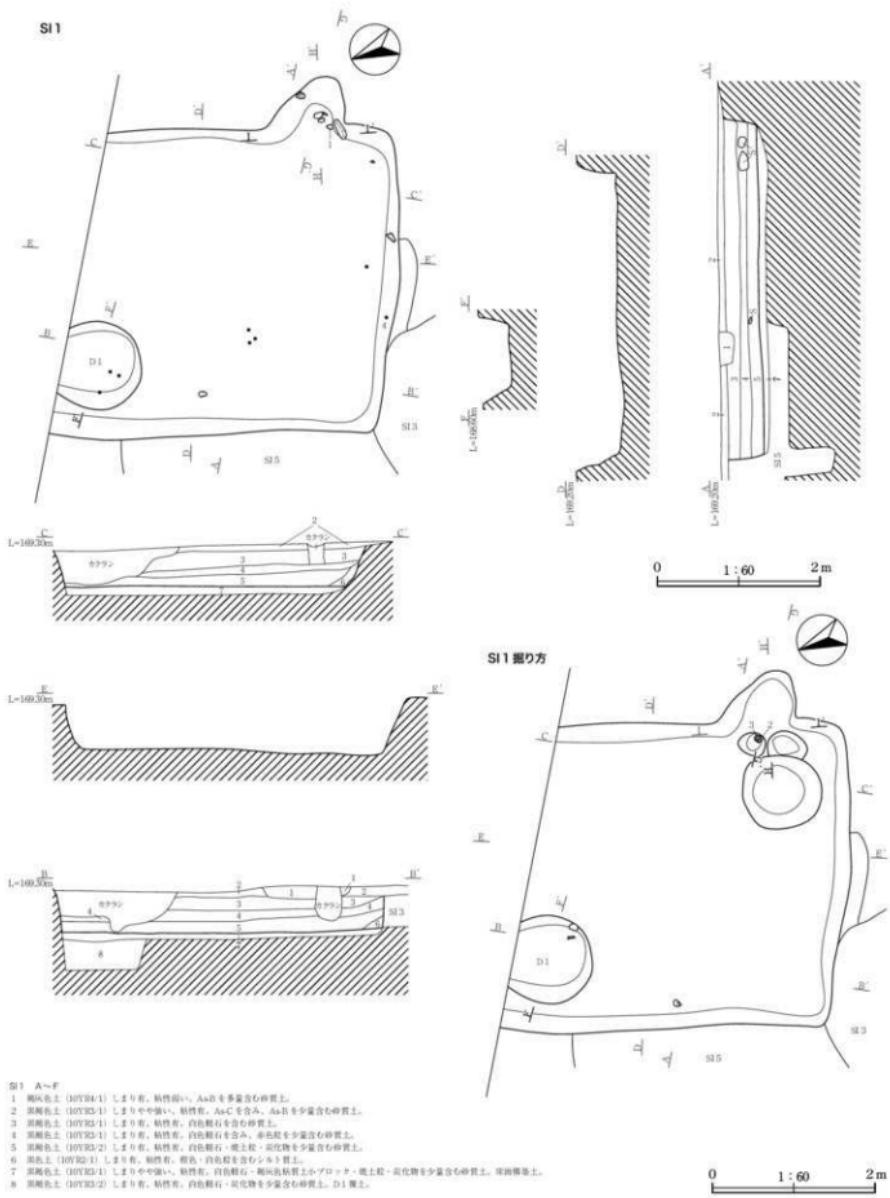
第7図 調査区トレンチA~H



第8図 調査区トレンチI～L

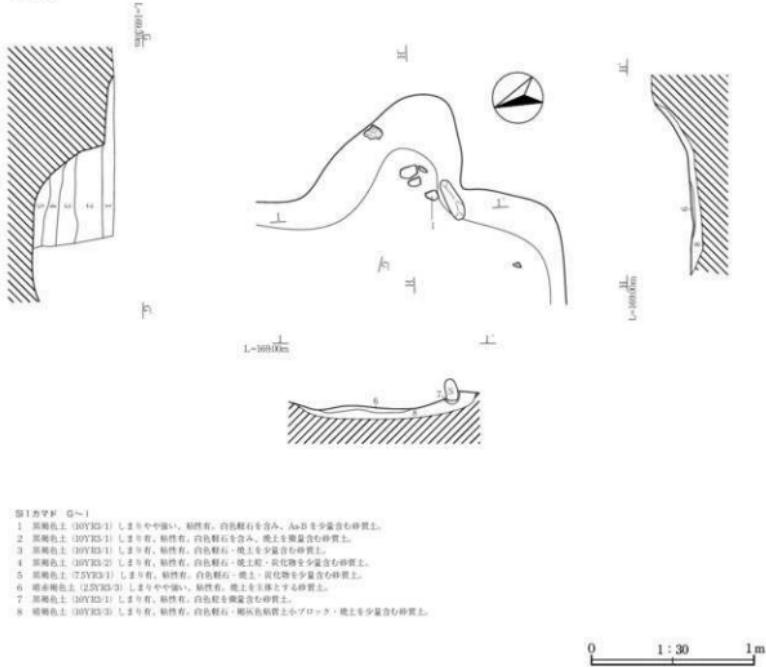


第9図 調査区トレンチM~Q

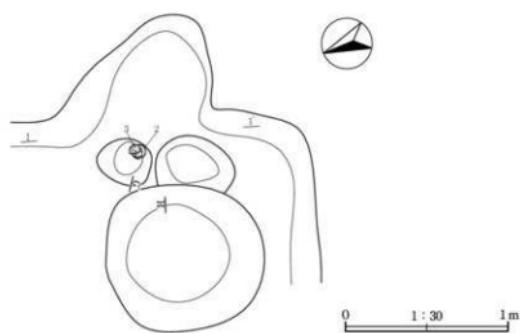


第10図 SI 1 (1)

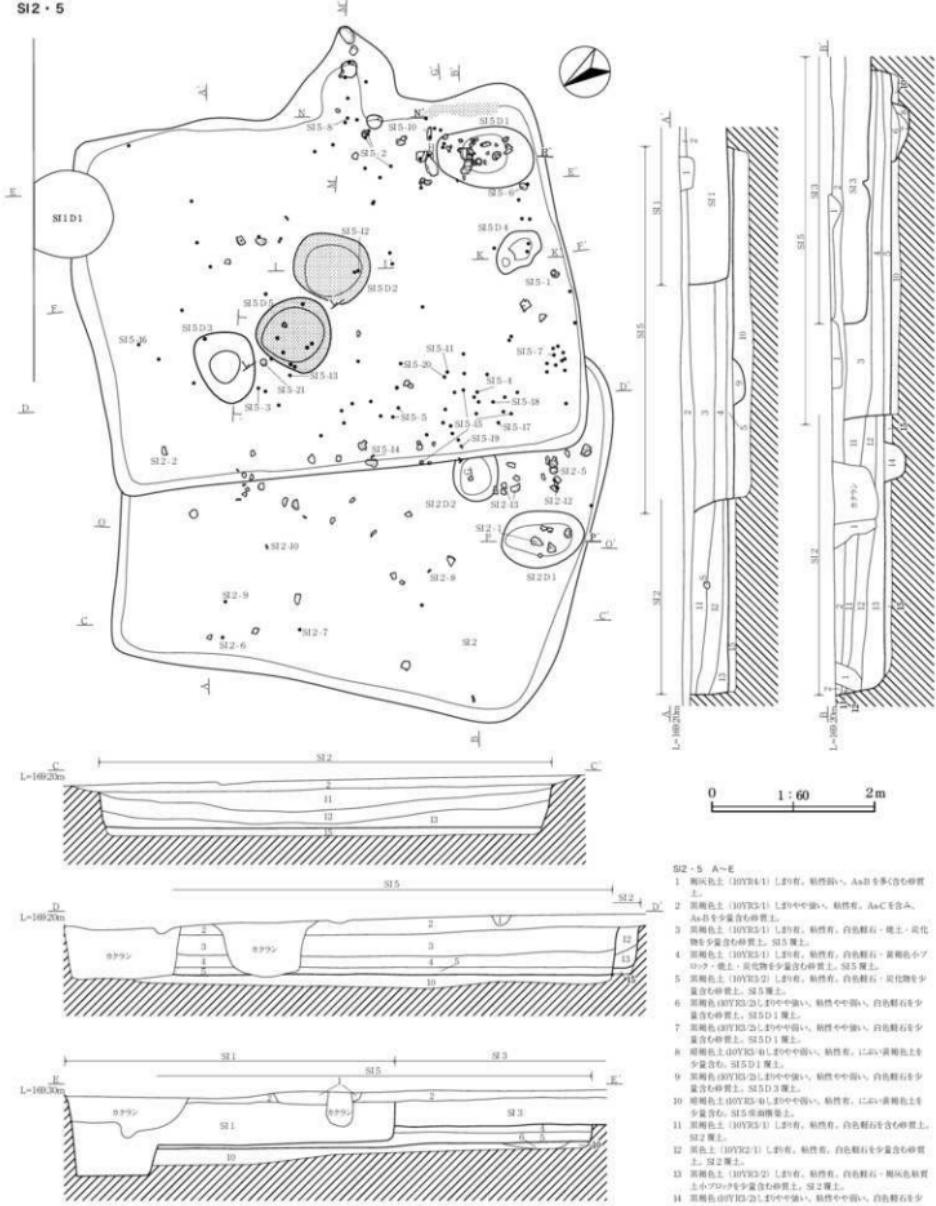
SI 1 カマド



SI 1 カマド掘り方

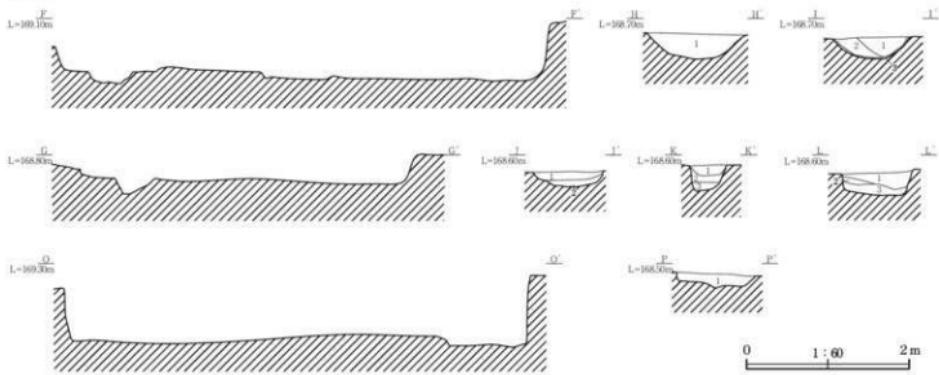


第11図 SI 1 (2)

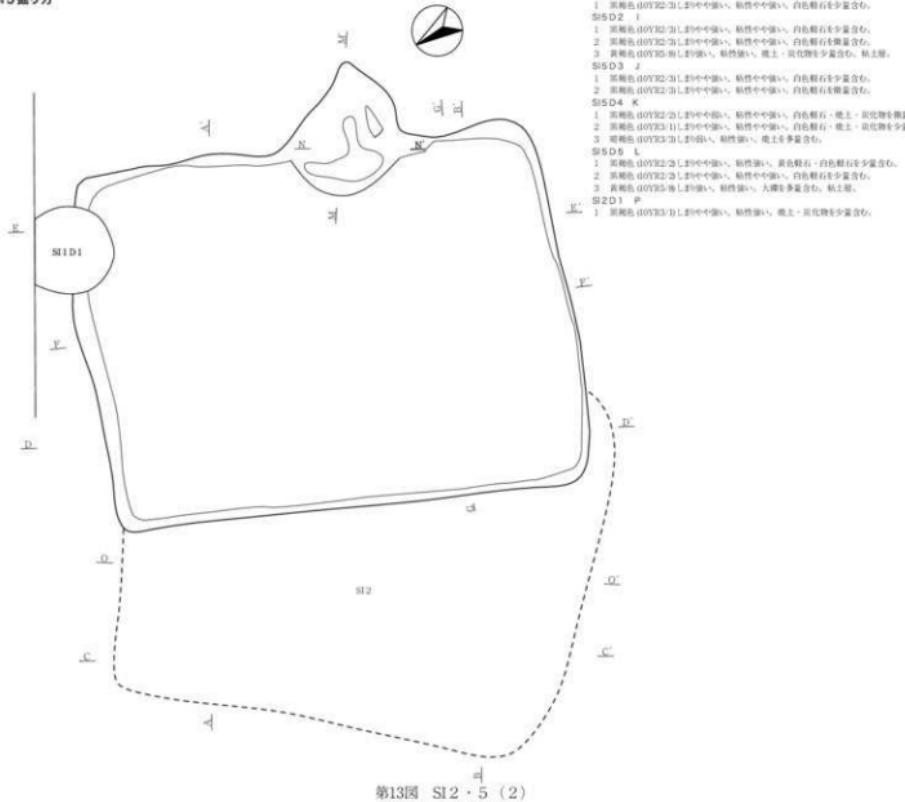


第12図 SI2・5(1)

SI 2・5

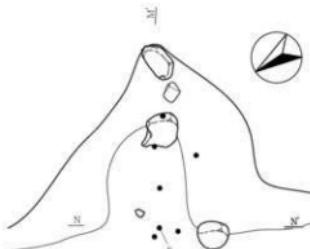


SI 5掘り方

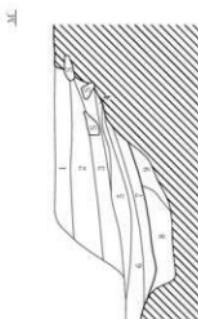


第13図 SI 2・5 (2)

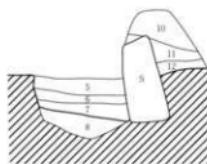
SI5カマド



SI
L=169.0m



M
L=169.0m

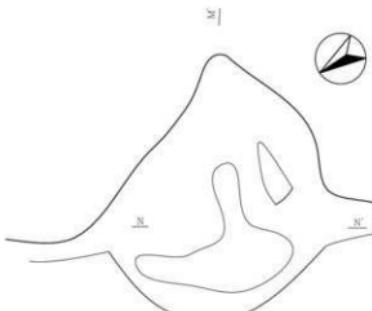


0 1:30 1m

SI5カマド M・N

- 1 黄褐色土 (SIY3C2) 上砂質、粘性有、白色軽石を含み、地土中に微量含む砂質土。
- 2 黄褐色土 (SIY3C2) 上砂質、粘性有、地土にアラバチテを含む砂質土。
- 3 黄褐色土 (SIY3C2) 上砂質、粘性有、地土にアラバチテを含む砂質土。
- 4 硫水鉄色土 (SIY3C2) 上砂質、粘性有、黑色チクテー炭化物を含む砂質土。
- 5 黄褐色土 (SIY3C2) 上砂質、粘性有、白色軽石、地土に炭化物を含む砂質土。
- 6 黄褐色土 (SIY3C2) 上砂質、粘性有、地土に炭化物を含む砂質土。
- 7 黄褐色 (SIY3C2-1) 上砂質、粘性やや弱い、地土を多量含む砂質土。
- 8 黄褐色土 (SIY3C2-2) 上砂質、粘性弱い、地土を多量含む砂質土。
- 9 硫水鉄色土 (SIY3C2-3) 上砂質、粘性有、白色軽石、黄褐色小アラバチテ、地土に炭化物を含む砂質土。
- 10 黄褐色土 (SIY3C3) 上砂質、粘性有、白色軽石、黄色軽石小アラバチテ、地土に炭化物を含む砂質土。
- 11 黄褐色土 (SIY3C4) 上砂質、粘性有、白色軽石、地土に炭化物を含む砂質土。
- 12 黄褐色土 (SIY3C5) 上砂質、粘性有、地土に炭化物を含む砂質土。

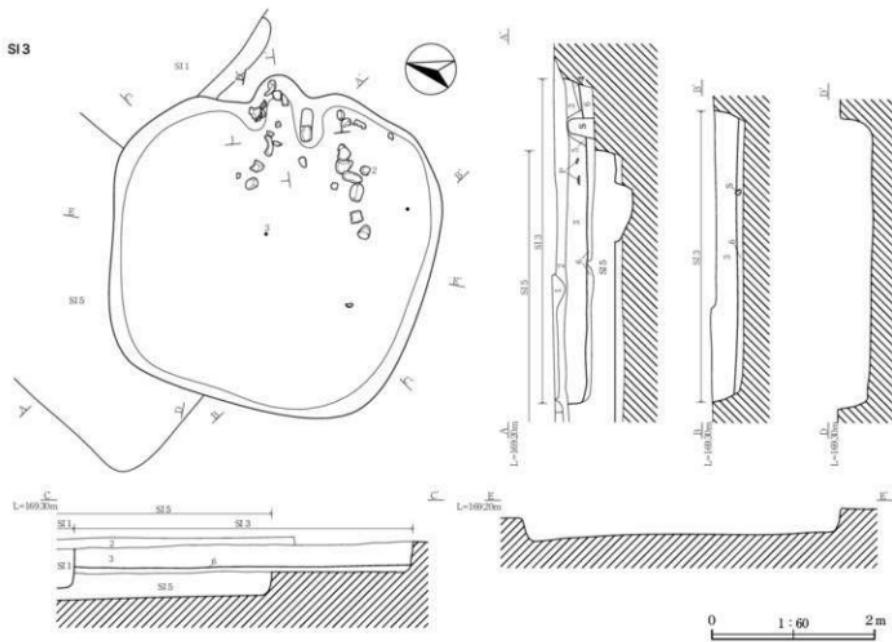
SI5カマド掘り方



SI
0 1:30 1m

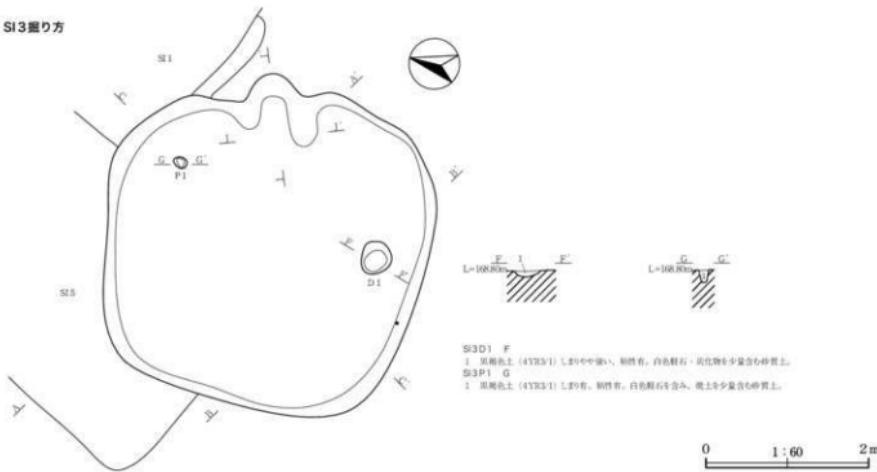
0 1:30 1m

第14図 SI 2・5 (3)



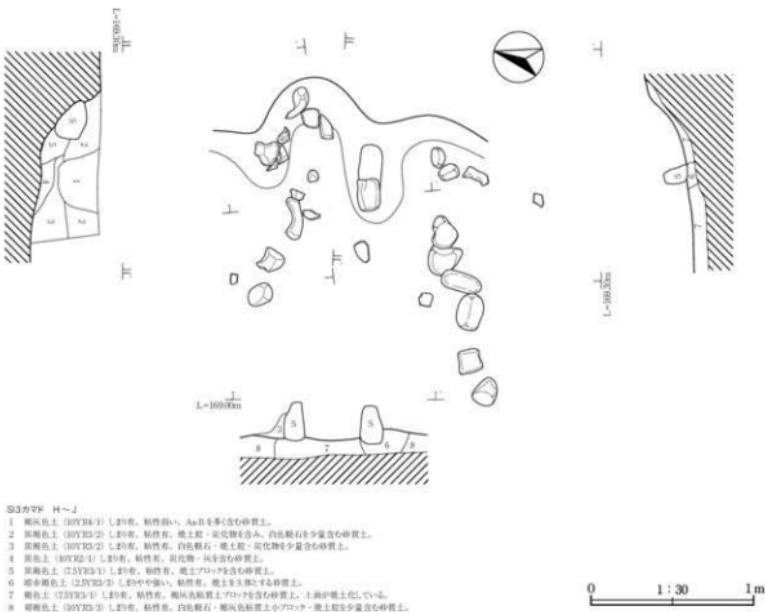
S33 A~C

1. 地中海型 (Y3B+1) L30cm, 柔軟性小, A+B+C各含半條骨質。
2. 地中海型 (Y3C+1) L30cm, 柔軟性小, A+C各含半條骨質, A+B+C各含半條骨質。
3. 地中海型 (Y3D+1) L30cm, 柔軟性小, A+C各含半條骨質。
4. 地中海型 (Y4B+1) L30cm, 柔軟性大, 白肉有筋, 白肉含骨質。
5. 黑羅馬 (Y4C+2) L30cm, 柔軟性大, 白肉無筋, 白肉含骨質。
6. 黑羅馬 (Y4D+2) L30cm, 柔軟性大, 白肉無筋, 白肉含骨質。

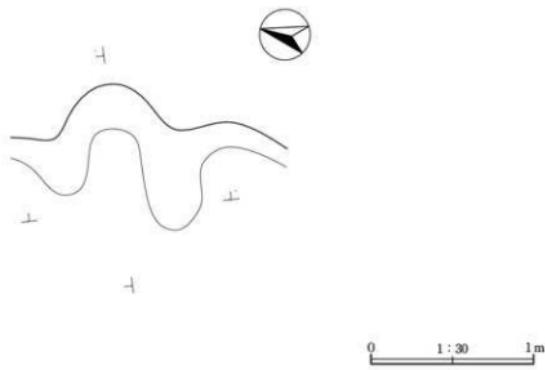


第15圖 SI 3 (1)

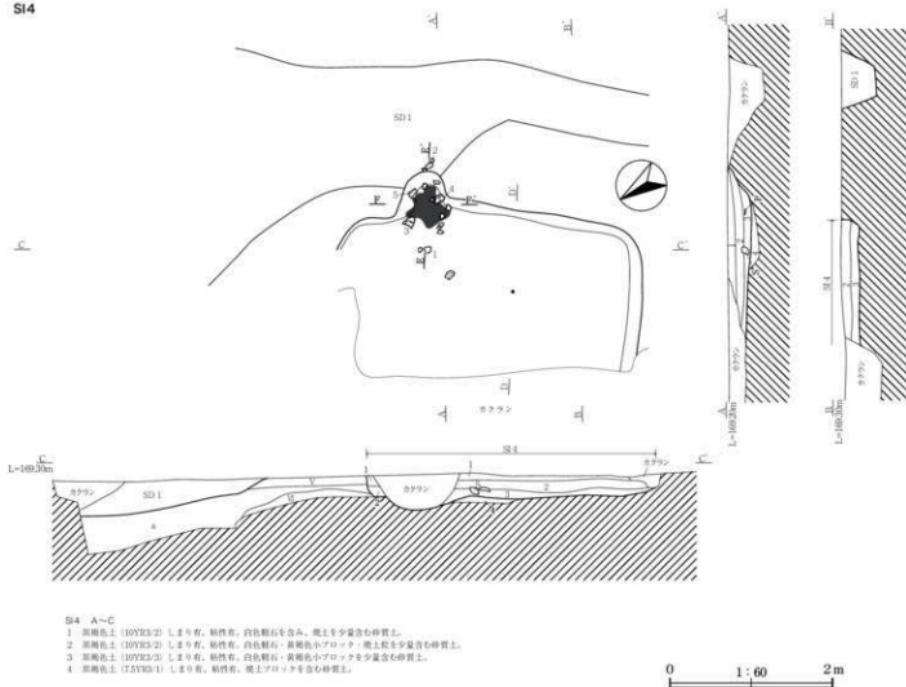
SI 3 カマド



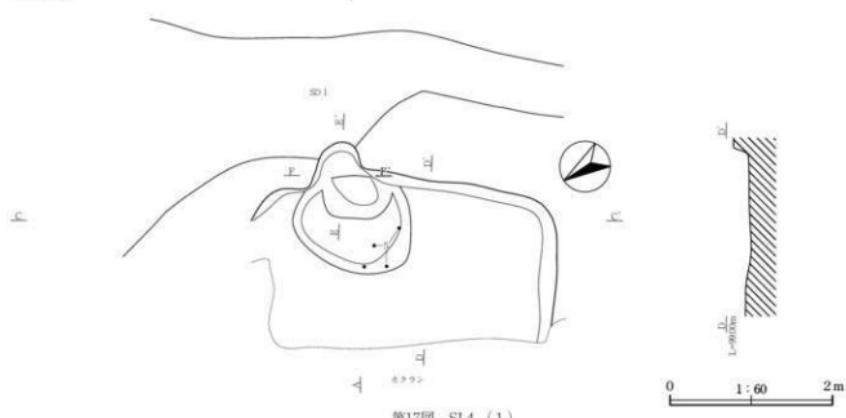
SI 3 カマド掘り方



第16図 SI 3 (2)

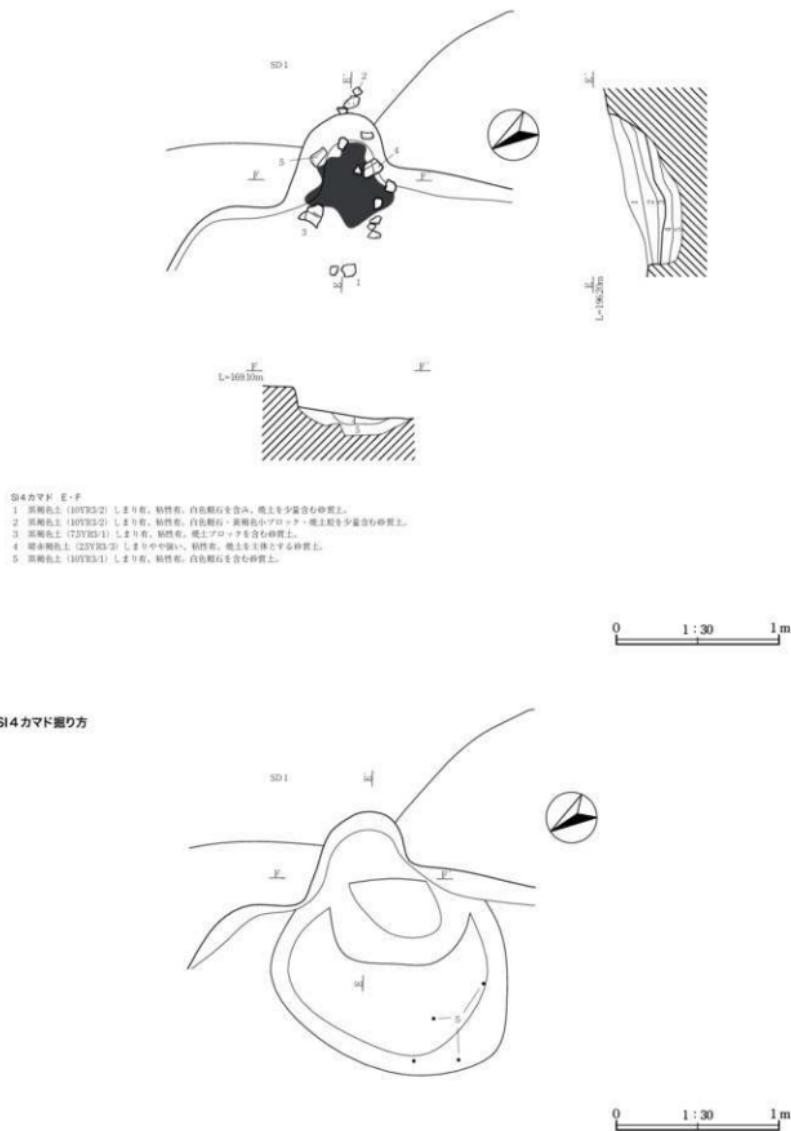


SI4 掘り方

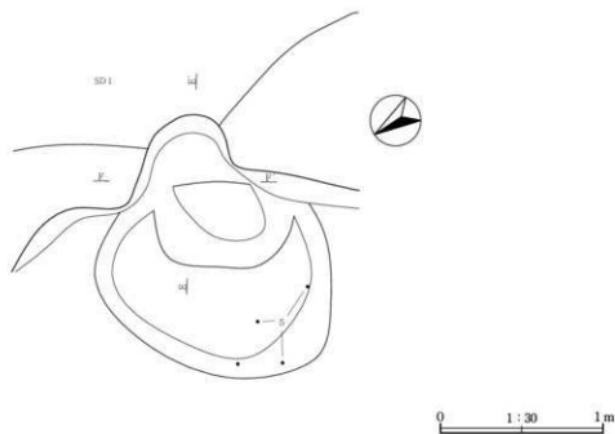


第17図 SI 4 (1)

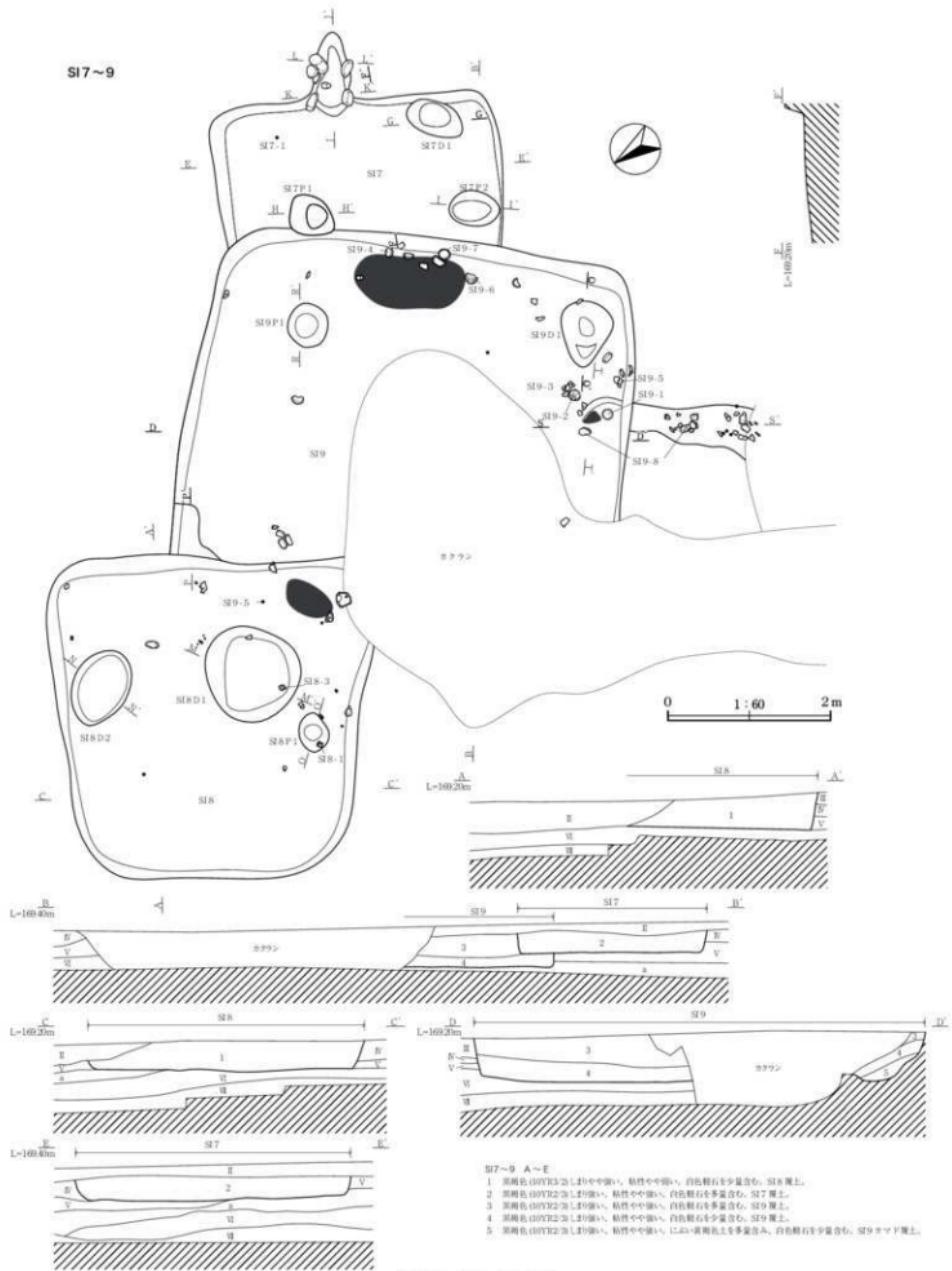
SI4カマド



SI4カマド掘り方

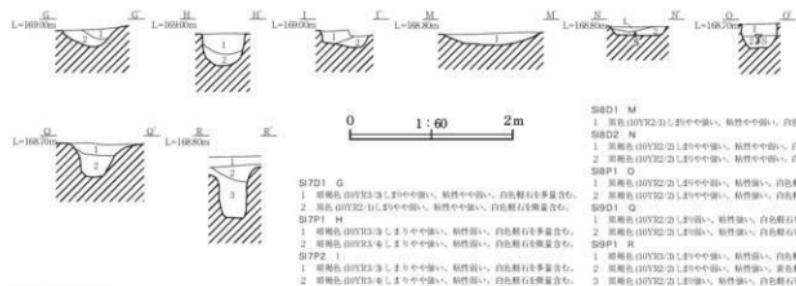


第18図 SI 4 (2)

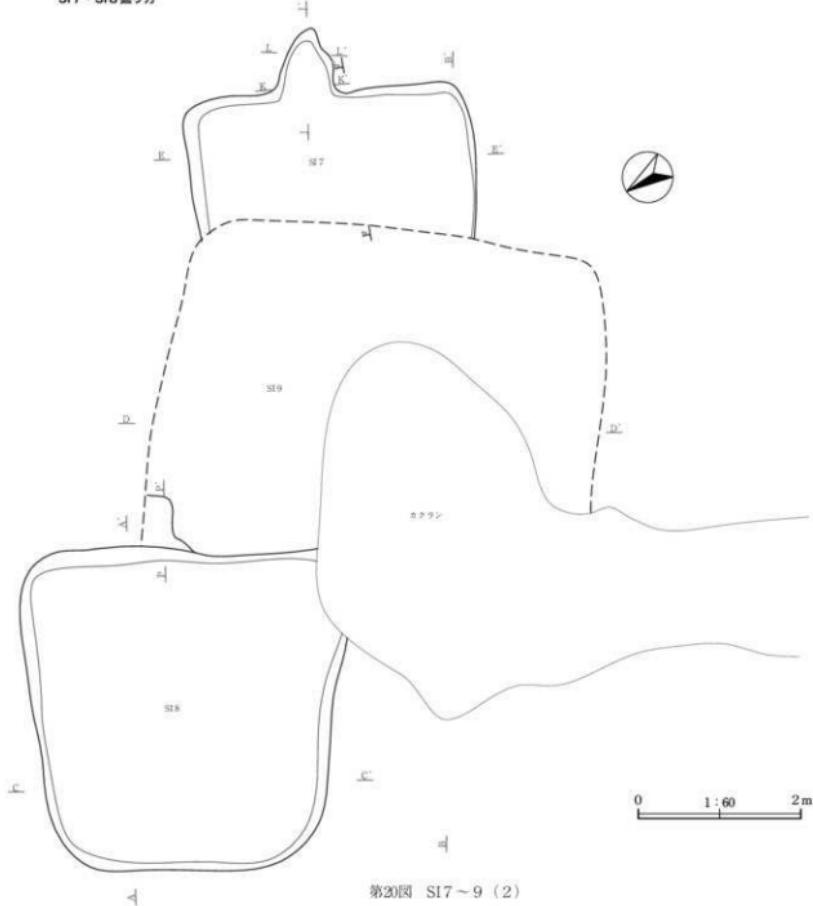


第19図 SI7~9 (1)

SI 7～9

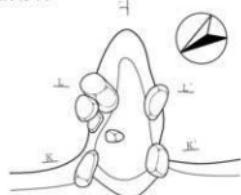


SI 7・SI 8 墓方

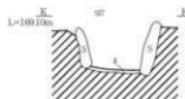
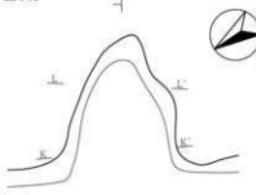


第20図 SI 7～9 (2)

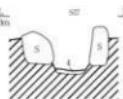
SI 7 カマド



SI 7 カマド掘り方



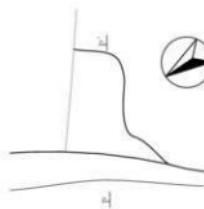
0 1:30 1 m



SI 7 カマド

- 1 黒褐色(OBY22-2)の者。粘性弱い。AsDを多量含む砂質土。
- 2 黒褐色(OBY22-2)の者。粘性弱い。AsD・白色粗石の少量含む砂質土。
- 3 黒褐色(OBY22-2)の者。粘性弱い。AsDを多量含む砂質土。
- 4 黑褐色(OBY23-3)の者。粘性やや強い。AsDを多量含む砂質土。

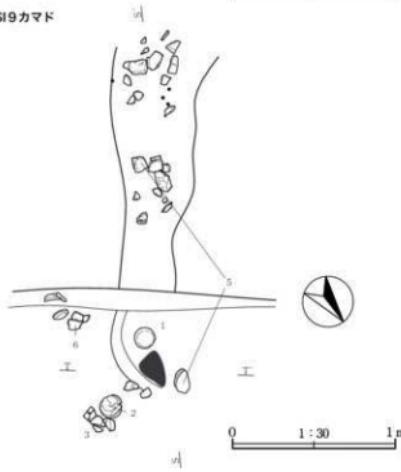
SI 8 カマド



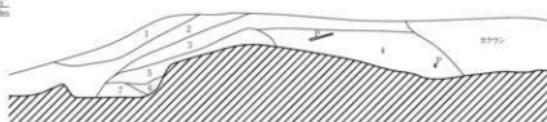
SI 8 カマド P

1 黒褐色土 (10YR3/1) Lの有。粘性有。白色粗石を含む砂質土。

0 1:30 1 m



L=109.30m

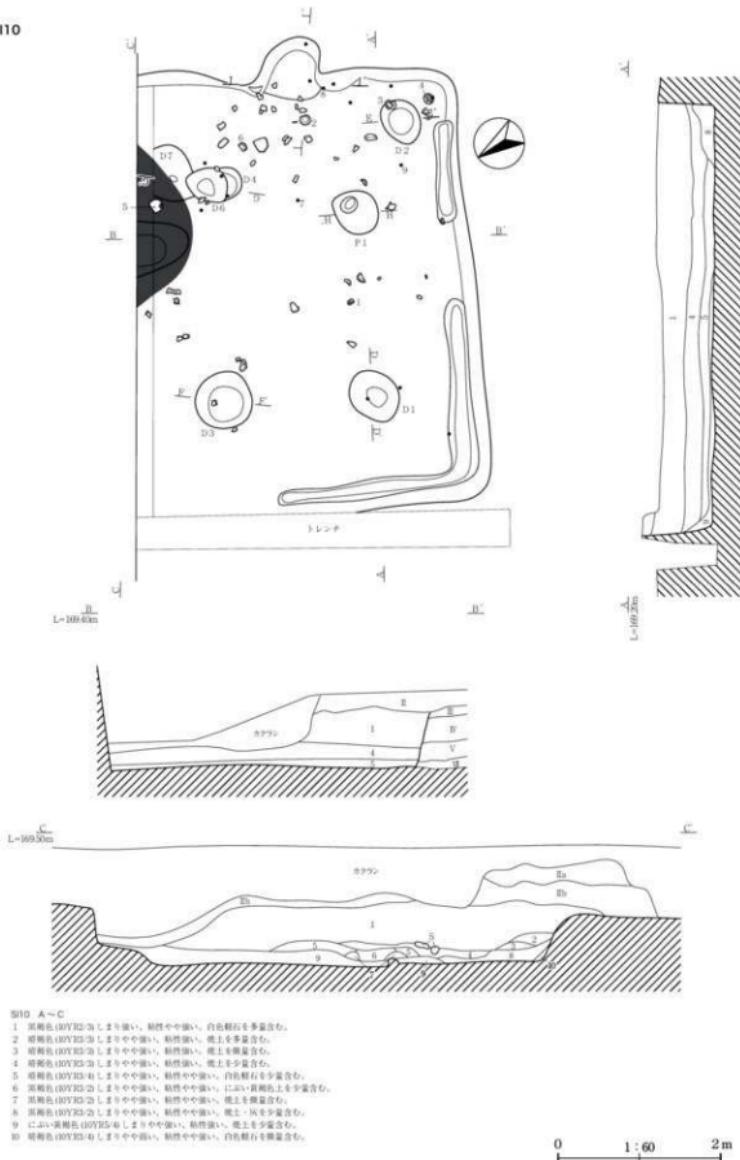


L=109.70m



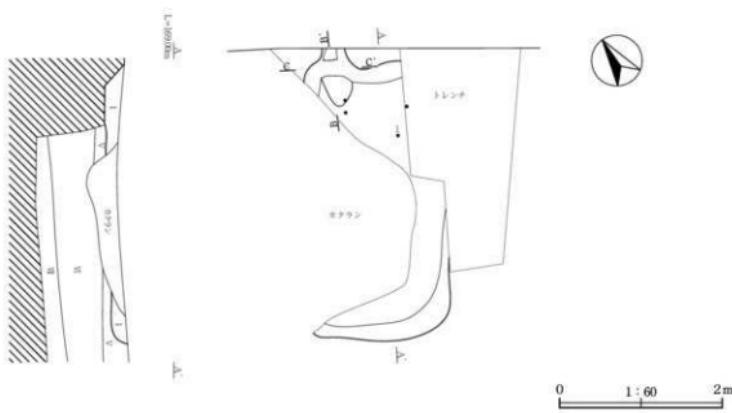
- SI 9 カマド S-T
- 1 黒褐色(OBY22-2)しりやや薄い。粘性弱い。白色粗石を多量含み。地主を黒褐色含む砂質土。
 - 2 黒褐色(OBY22-2)しりやや薄い。粘性弱い。白色粗石を少量含む砂質土。
 - 3 黒褐色(OBY22-2)しりやや薄い。粘性弱い。白色粗石を少量含み。地主を黒褐色含む砂質土。
 - 4 黑褐色(OBY23-3)しりやや薄い。粘性やや強い。白色粗石を少量含み。地主を黒褐色含む砂質土。
 - 5 黑褐色(OBY23-2)しりやや薄い。粘性弱い。地主を多量含み。白色粗石を黒褐色含む砂質土。大井路土。
 - 6 黑褐色(OBY23-2)しりやや薄い。粘性やや強い。地主を灰褐色を少量含み。白色粗石を黒褐色含む砂質土。
 - 7 黑褐色(OBY23-2)しりやや薄い。粘性弱い。

第21図 SI 7～9 (3)



第22図 SI10 (1)

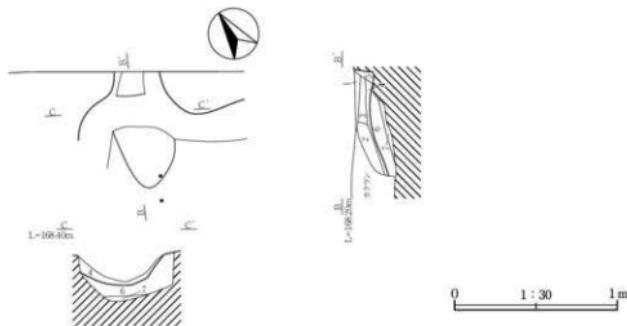
SII1



SII1 A

1 黑褐色(10YR3/2)じまりやや強い、粘性やや弱い、白色粗石を少量含む。

SII1 カマド

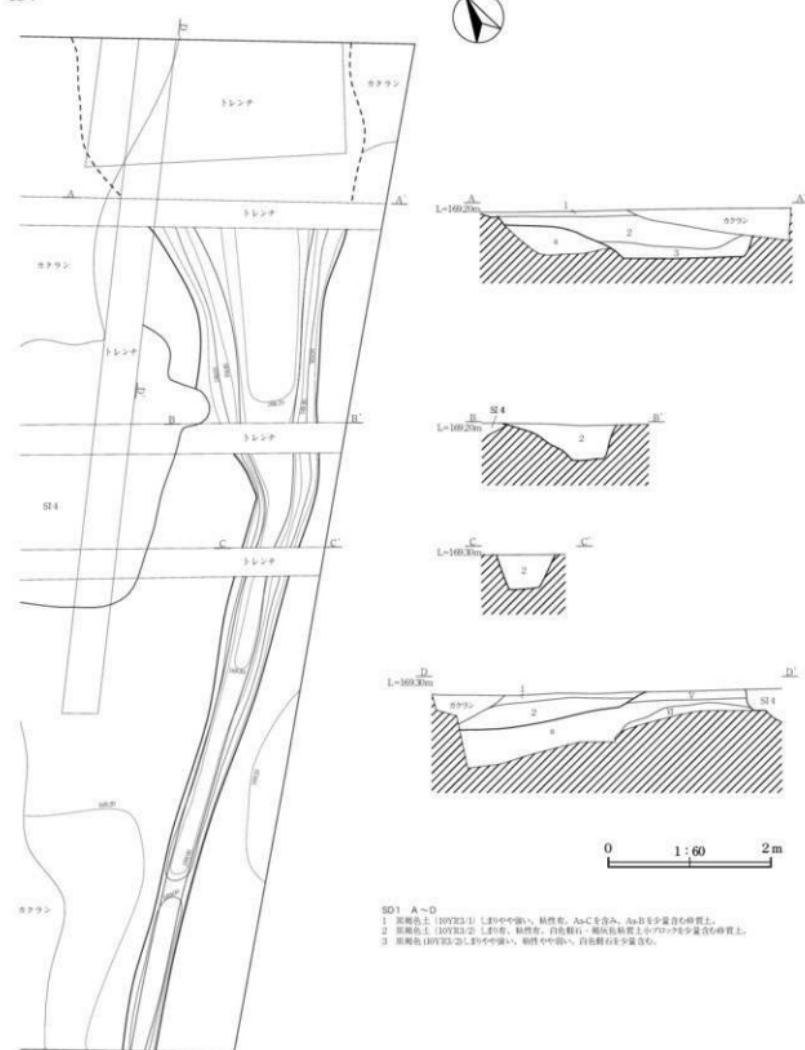


SII1 カマド B-C

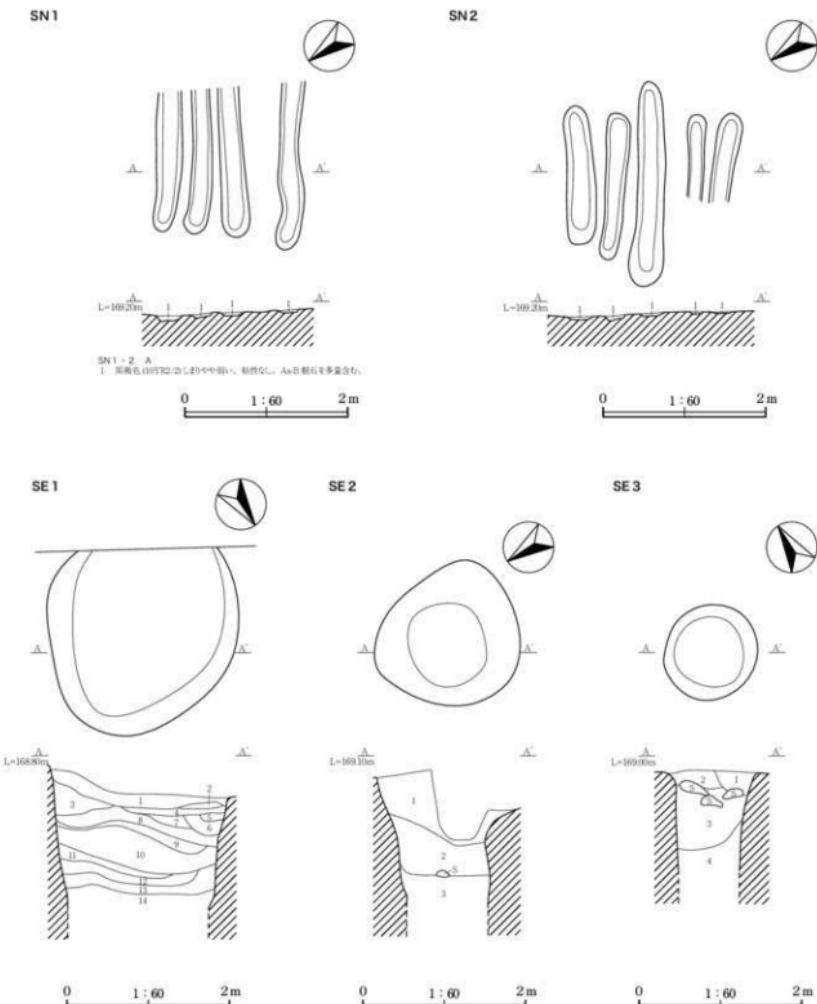
- 1 黒褐色(10YR2/2)じまりやや強い、粘性やや弱い、白色粗石を微量含む砂質土。
- 2 黒褐色(10YR2/2)じまりやや強い、粘性やや弱い、白色粗石を微量含む砂質土。
- 3 黒褐色(10YR2/2)じまりやや強い、粘性やや弱い、白色粗石を微量含む砂質土。
- 4 黒褐色(10YR3/2)じまりやや強い、粘性やや弱い、白色粗石を微量含む砂質土。
- 5 明赤褐色(10YR5/8)じまりやや強い、粘性やや弱い、白色粗石を微量含む砂質土。
- 6 明赤褐色(10YR5/8)じまりやや強い、粘性強い、白色粗石を微量含む砂質土。
- 7 黑褐色(10YR3/4)じまり弱い、粘性強い、白色粗石を微量含む砂質土。

第24図 SII1

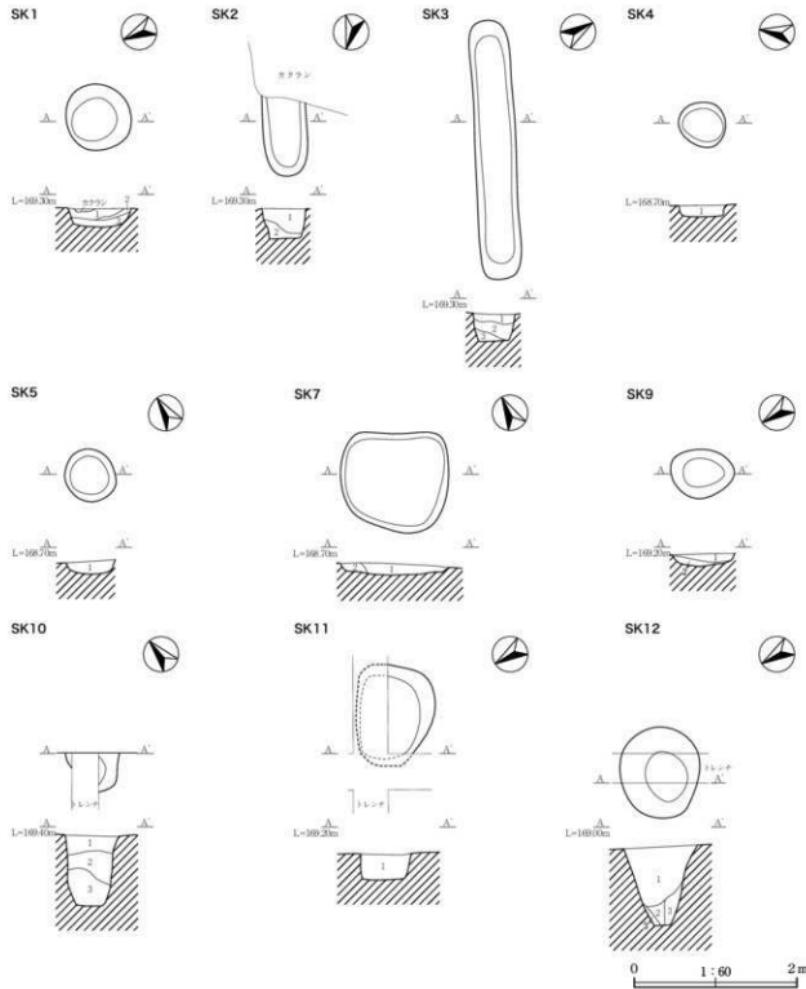
SD 1



第25図 SD 1



第26図 SN 1・2, SE 1~3



SK1 A

- 1 黒褐色(OYV2-2) L上部、粘性弱い、AsIIを多量含む。
- 2 黒褐色(OYV2-2) L下部、粘性弱い、AsIIを多量含み、にじく黃褐色砂質土を少量含む。
- 3 黑褐色(OYV2-2) L中部、粘性弱い、AsIIを多量含み、兩側丘筋土を微量含む。

SK2 A

- 1 黒褐色(OYV2-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 2 黑褐色(OYV2-2) L中部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 3 黑褐色(OYV2-2) L下部、粘性弱い、AsIIを微量含む。

SK3 A

- 1 黒褐色(OYV2-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 2 黑褐色(OYV2-2) L中部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。

SK4 A

- 1 黑褐色(OYV2-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。

SK5 A

- 1 黑褐色(OYV2-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 2 黑褐色(OYV2-2) L中部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 3 黑褐色(OYV2-2) L下部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。

SK9 A

- 1 黃褐色(OYV3-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 2 黄褐色(OYV3-2) L中部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。

SK10 A

- 1 黄褐色(OYV3-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 2 黄褐色(OYV3-2) L中部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 3 黄褐色(OYV3-2) L下部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。

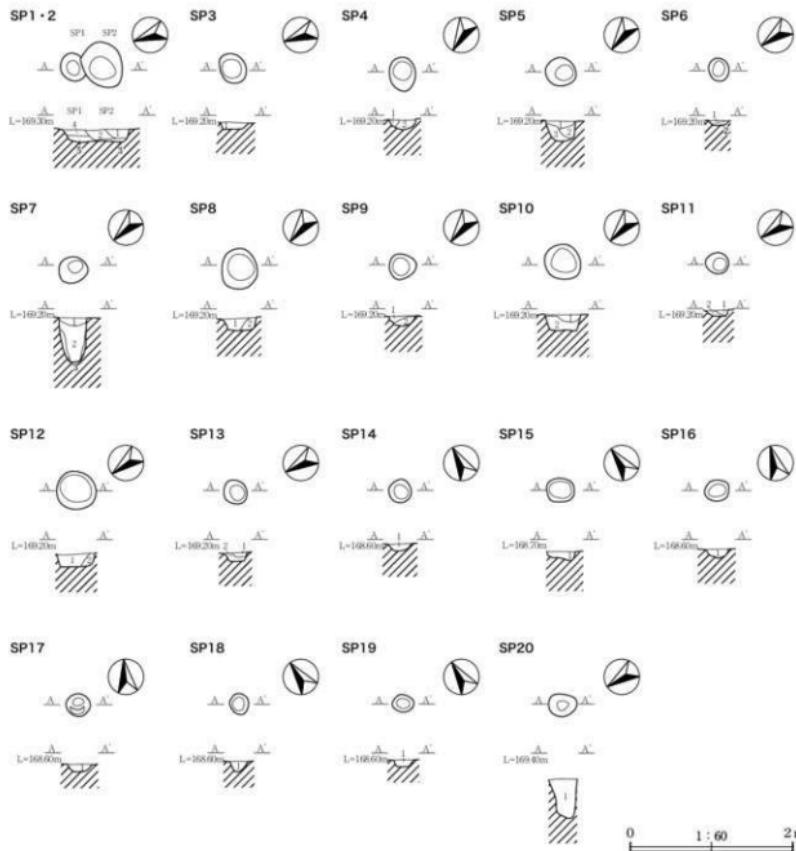
SK11 A

- 1 黑褐色(OYV3-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 2 黑褐色(OYV3-2) L中部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 3 黑褐色(OYV3-2) L下部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。

SK12 A

- 1 黑褐色(OYV3-2) L上部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 2 黑褐色(OYV3-2) L中部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。
- 3 黑褐色(OYV3-2) L下部、粘性弱い、白色軽石を微量含む。

第27図 SK 1～5・7・9～12



SP1-2 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。白色粗石を少量含む。
- 2 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。白色粗石を少量含む。
- 3 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。白色粗石を少量含む。
- 4 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。白色粗石を少量含む。
- 5 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。白色粗石を少量含む。

SPS A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。
- 2 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。
- 3 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。白色粗石を微量含む。

SP6 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。
- 2 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。
- 3 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。白色粗石を微量含む。

SP7 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。
- 2 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。

SP10 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。
- 2 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。

SP11 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。

SP12 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。

SP13 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。

SP14 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。

SP15 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。黑色粗石を少量含む。

SP16 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。黑色粗石を少量含む。

SP17 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。黑色粗石を少量含む。

SP18 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。黑色粗石を少量含む。

SP19 A

- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。黑色粗石を少量含む。

SP20 A

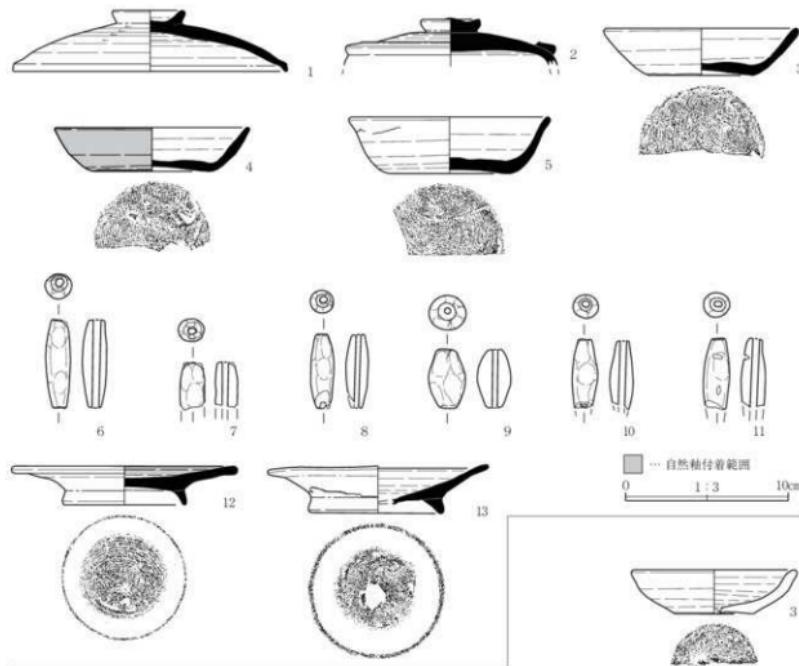
- 1 黄褐色(0/T92/2) L=169.3cm 均一性なし。AsBを多量含む。

第28図 SP 1 ~ 20

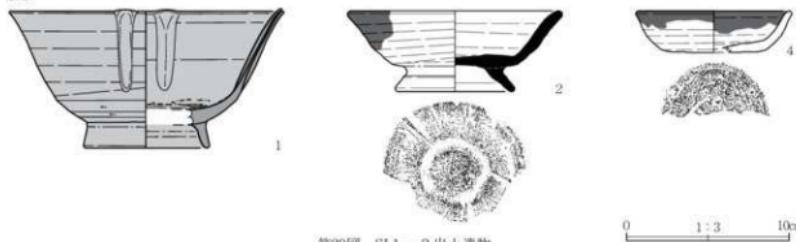
SI 1



SI 2

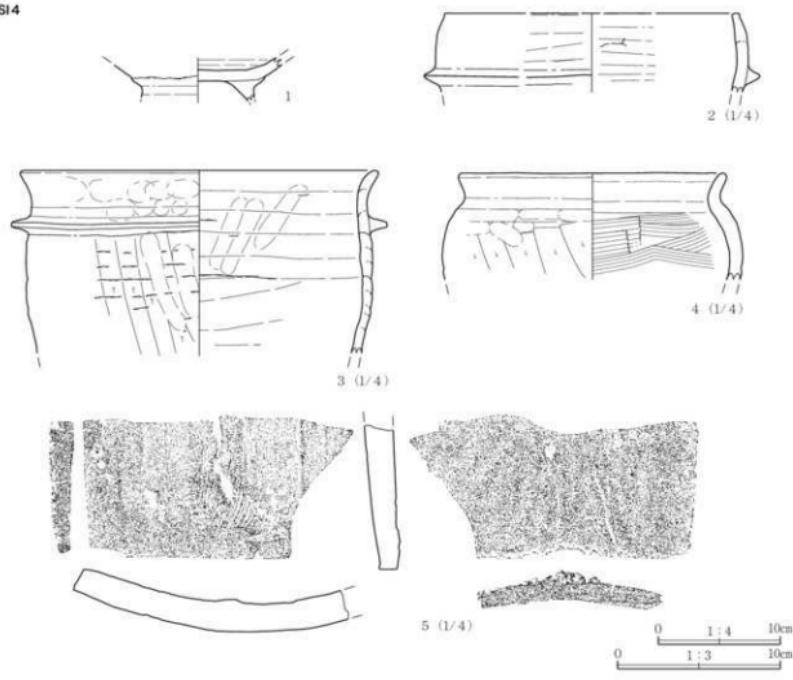


SI 3

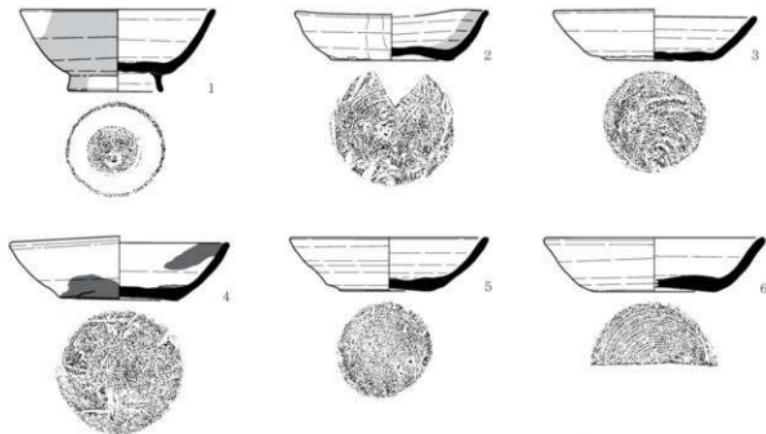


第29図 SI 1 ~ 3 出土遺物

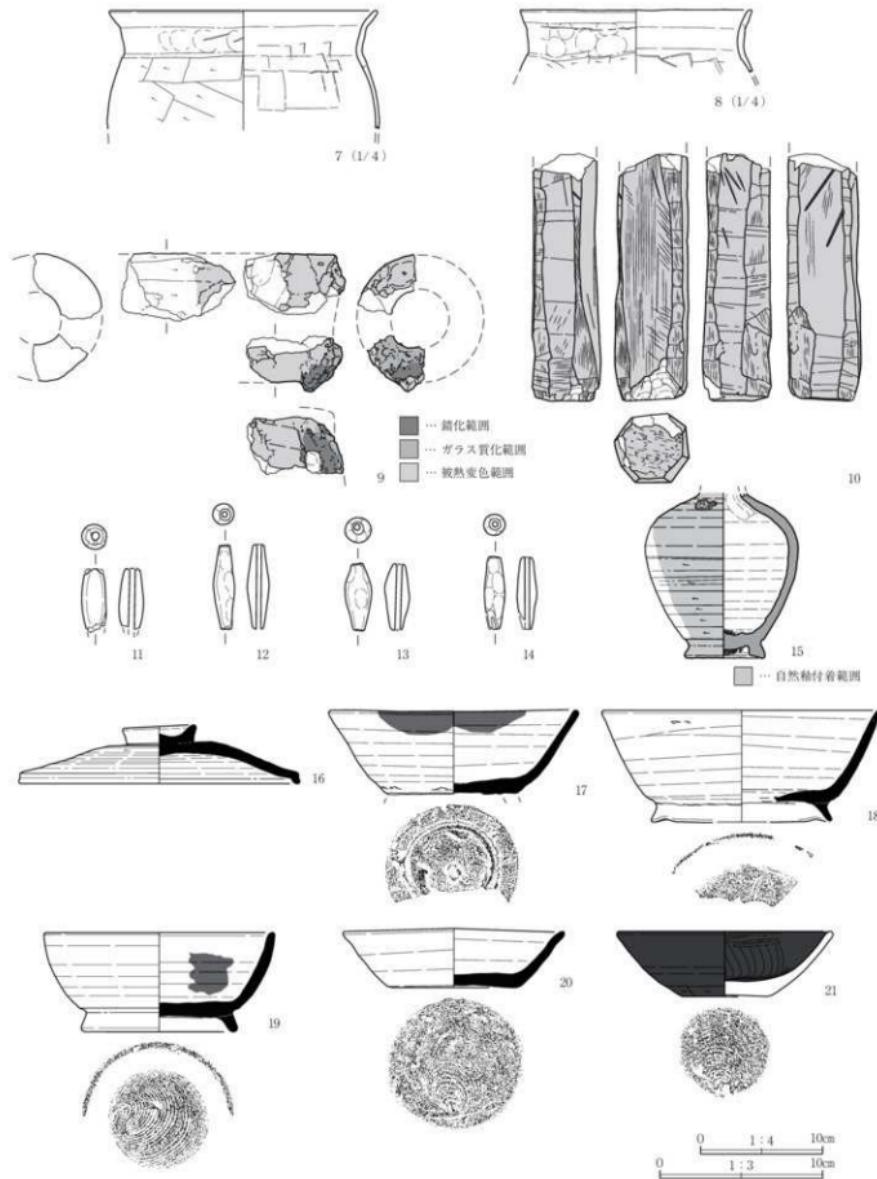
SI4



SI5

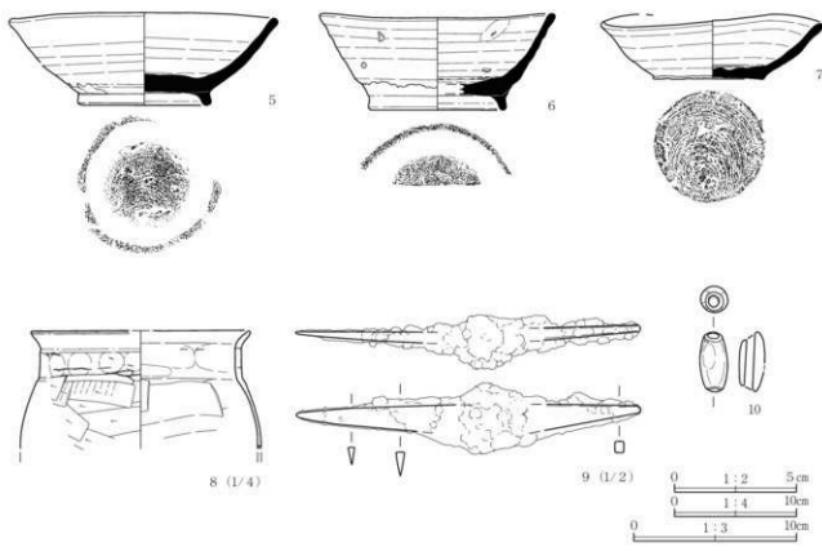


第30図 SI 4・5 出土遺物

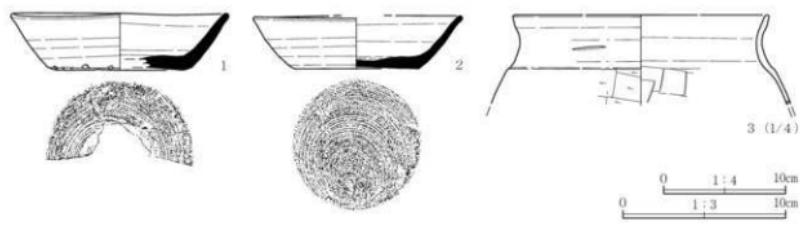


第31図 SI5 出土遺物

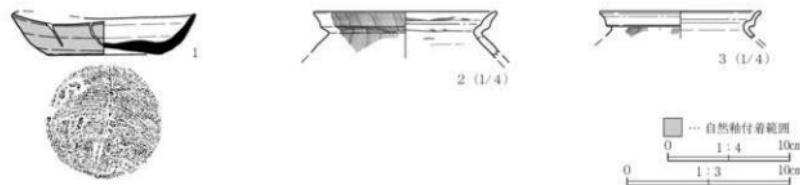
SI10



SI11



遺構外



第33図 SI10・11、遺構外出土遺物

第2表 出土遺物観察表

SI 1

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・形態、文様等の特徴	現存状況・備考
1	Ma-3	灰陶器	瓶	(15.6)	大底	4.6	黏土質・白色胎	焼成	灰オーバー 内側オーバー	外側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、外側直線。 内側オーバー、外側直線。	口縁・全体ノック。
2	Ma-15	灰陶器	瓶	9.4	4.4	2.6	白・灰・黑色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁ノック。
3	Ma-16	灰陶器	瓶	9.6	4.2	3.5	白色胎・灰・黑色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁ノック。
4	Ma-13	灰陶器	罐	13.0	6.6	4.0	白色胎・灰・黑色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁ノック。

SI 2

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・形態、文様等の特徴	現存状況・備考
1	Ta-14	灰陶器	瓶	(16.0)	大底	4.5	粘土胎・白色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、外側直線。 内側オーバー、外側直線。	口縁・全体ノック。
2	Ma-28	灰陶器	瓶	13.0	5.8	4.0	白・灰・黑色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁ノック。
3	難土	灰陶器	瓶	(12.0)	(6.0)	3.6	白色胎・灰・黑色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁ノック。
4	難土	灰陶器	瓶	(12.0)	(6.0)	2.7	白色胎・灰・黑色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁ノック。
5	Ma-8	灰陶器	瓶	(12.4)	(7.6)	3.2	白・灰色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁ノック。

SI 3

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・形態、文様等の特徴	現存状況・備考
6	Ma-1	灰陶器	罐	5.5	2.5	1.5	白・灰色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、内側丸み付。	2.5周。
7	Ta-2	灰陶器	罐	(2.0)	1.5	1.5	白・灰色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、内側丸み付。	2.5周。
8	Ma-19	灰陶器	罐	4.5	1.4	1.4	白・灰色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、内側丸み付。	1.2周。
9	Ma-27	灰陶器	罐	3.7	2.3	2.1	白色胎・灰・黑色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、内側丸み付。	1.2周。
10	Ma-68	灰陶器	罐	14.0	1.8	1.5	白・灰色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、内側丸み付。	2.5周。
11	カクラン	灰陶器	罐	(4.0)	1.8	1.5	白・灰色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面下部にヘタツリ調整、内側丸み付。	2.5周。

SI 4

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・形態、文様等の特徴	現存状況・備考
12	Ma-10-45	灰陶器	瓶	14.0	7.8	2.7	白色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
13	Ma-40-43	灰陶器	瓶	13.5	8.2	3.2	白色胎・灰	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。

SI 5

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・形態、文様等の特徴	現存状況・備考
1	Ma-15	灰陶器	瓶	(12.0)	大底	4.4	白色胎・灰・黑色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
2	Ta-1	罐	(12.0)	大底	6.5	1.1	白・灰・黑色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
3	Ma-13	罐	(12.0)	大底	6.4	3.0	白・灰・黑色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
4	Ma-77	罐	(12.0)	大底	7.6	3.6	白色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
5	Ma-87-88	罐	(12.0)	大底	6.0	3.3	白・灰色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
6	Ma-6-3	罐	(12.0)	大底	14.4	1.1	白・灰・黑色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
7	Ma-23	罐	(12.0)	大底	9.0	1.1	白・灰・黑色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。
8	Ma-6-30-8	罐	(12.0)	大底	5.1	1.1	白・灰・黑色胎	焼成	灰	外側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。

No	出土位置	種別	基盤	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・形態、文様等の特徴	現存状況・備考
9	難	土器	罐	6.0-7.0	3.0	1.5	白色胎	焼成	灰	内側オーバー、底面凹凸あり。	口縁・全体ノック。

SI 5

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
10	76a10	石製品 石刀	111.1	48	62	麻理田	—	—	620g	直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	上蓋無し。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石材	焼成	色調	重量	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
11	76a11	石製品 石刀	120	15	15	白・黒色地、黒	良好	浅朱褐	37g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	1. 下端が欠損。
12	76a12	石製品 石刀	94.0	18	13	白・黒色地、黒	良好	11.5x1.7	4.0g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	良好。
13	76a17	石製品 石刀	61	18	13	白・黒色地、黒	良好	10.0x1.7	3.0g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	良好。
14	76a24	石製品 石刀	104	12	13	白・黒色地、黒	良好	11.5x1.7	5.5g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	良好。根元部欠損。
No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	石材	焼成	色調	重量	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
15	76a28-29 76a29-30	石製品 小刀	36	(30)	10	白・黒	良好	碧玉	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	手元2.3cm欠損。	
16	76a31	石製品 砕	117.6	46	36	白色地黒點、白	良好	深灰	40g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	3.5cm欠損。
17	76a31	石製品 石刀	154	18	12	白・黒・茶色地	良好	深灰	40g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	3.5cm欠損。
18	76a32	石製品 石刀	111.0	18	12	白・黒色地	良好	深灰	40g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	1/4cm欠損。
19	76a32-33	石製品 石刀	142	9.0	10	白・黒地	良好	深灰	40g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	3.5cm欠損。
20	76a41	石製品 砕	115.0	46	33	白・黒色、黒斑地	良好	深灰	40g	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	3.5cm欠損。
21	76a41-76a5	土器類 磁	133.1	55	40	白・黒、黒斑地、	良好	浅朱褐	102g	内側にクロマチック接着剤から軽度剥離に連なるヘリオサテライト質。黑色地。	3.5cm欠損。

SI 7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	石材	焼成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	76a-1	容器	(24.0)	18.0	(30)	白・黒色地、黒	難燃	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口縁一部欠損。底面(30cm)。

SI 8

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	石材	焼成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考	
1	76a14	石製品 砕	10.0	5.0	3.2	白・黒・茶色地、	難燃	碧玉	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	1/2cm欠損。	
2	76a14	石製品 内側底	10.0	5.0	3.2	白・黒地	難燃	碧玉	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	底面(10cm)白粉剥離。	
No	出土位置	種別、器種	長径	短径	厚さ	材質	焼成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考	
3	76a-9	瓶	9.3	3.0	3.3	陶	難燃	—	—	1.上縁に横溝があり、瓶口及び肩部に乳突が認められる。下縁は丸く底まで滑らかである。	良好。

SI 9

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	石材	焼成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	76a-1	土器類 砕	10.9	5.0	3.0	白・黒色地、	セラット	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
2	76-5-1	土器類 砕	12.4	6.0	4.0	白・黒色地、	セラット	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	底面(12.4cm)欠損。
3	76a-6	土器類 砕	12.0	6.0	4.2	白・黄地	セラット	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
4	76a16	土器類 砕	11.5	6.0	3.7	白・黒・茶色地	良好	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	1/4cm欠損。
5	76a-9-45	土器類 砕	12.7	6.0	4.5	白・黒・茶色地	良好	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
6	76a12	土器類 砕	12.2	6.0	4.7	— 木炭付小口	良好	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
7	76a14	土器類 砕	12.7	6.0	4.8	白・黒・茶色地	良好	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
8	76a-30-76a-9	土器類 砕	16.2	6.0	8.0	白・黒・茶色地、	セラット	青	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	1-2cm。

SI 10

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	石材	焼成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
1	76a20	石製品 砕	15.1	12.0	3.2	白・黒、黄色地	碧玉	青白	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	1/2cm欠損。
2	76a-1	石製品 砕	15.5	10.0	3.0	白色地黒點、白	良好	深灰	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	上縁一端欠損直石欠損。
2	76a20	石製品 砕	14.2	7.2	3.0	白・黒・茶色地	難燃	青白	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	1/4cm欠損。
4	76a18	石製品 砕	12.7	7.6	3.3	白・黒色地、	難燃	深灰	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	底面(12.7cm)欠損。
5	76a-44	石製品 砕	16.6	8.2	3.7	白・黒色地、	難燃	青白	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
6	76a-2	石製品 砕	14.5-15.0	8.0	3.8	— 木炭付小口	良好	青白	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
7	76a21	石製品 砕	13.2	6.6	4.3	白・黒色地、	難燃	青白	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	口沿のみ。
8	76a48	石製品 砕	14.0	8.0	8.0	白・黒、黒斑地、	良好	明赤	内側にクロマチック接着剤で手元部分を接着してあります。底面は直角三刀一点切目。刃部は直角三刀一点切目。	山腹一側断面(14.0cm)。
No	出土位置	種別、器種	長径	幅	厚さ	石材	焼成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
9	76a21	石製品 砕	14.2	10.0	12.0	白	明赤	青白	右側面に大きな凹凸がある。内側に凹凸がある。右側面に大きな凹凸がある。	良好。
No	出土位置	種別、器種	長径	幅	厚さ	石材	焼成	色調	形態、成・整形、文様等の特徴	現存状況・備考
10	裏土	土器類 砕	37	12	10	白・黒・茶色地、	良好	青	碧玉質。手のひらにさしやすさをもつ。斜面には細かい凹凸がある。	良好。

SII

No	出土位置	種別、面積	口径	底径	高さ	施土	堆成	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	既存状況・備考
1	No. 4	現地直、W [134]	66	35	内・黑色灰 外・白色灰	素面	灰黄	内面のリメラジ、孔部の粘赤あり。 内側リメラジ。	上手直角。	
2	廻・ モッキン	現地直、W [229]	77	33	G1・灰色灰、系 白灰色	素面	灰	外側リメラジ、孔部の粘赤あり。 内側リメラジ。	G1直角・直角。	
3	廻土	人跡地、東 [226]	穴掘 (7)	石室、W、黑色 40	空洞	素面	灰黄	外側リメラジ、孔部の粘赤あり後、表面削り。内側リメラジ。	G1直角・斜面上空隙。	

遺構外

No	出土位置	種別、面積	口径	底径	高さ	施土	堆成	色調	断面、成・盤形、文様等の特徴	既存状況・備考
1	14 23.60- 廻土	現地直、W [123]	11.3 -12.8	21	26	内・黑色灰 外・白色灰	素面	灰灰	外側リメラジ、孔部の粘赤があり。遠内側へ丸削りが認められ。内側に茶みが 付く。底面は自然状態。	シルエット 茶み付。
2	廻土直	子體 現 [134]	穴掘 (24)	黄色灰	灰灰	素面	灰灰	外側・側面リメラジ孔部はハタケアリ。山脚等を中心に灰面を斜め且て斜 面と直面がハタケアリ。	G1廻・斜面。	
3	廻土直	子體 現 [132]	穴掘 (23)	黄色灰 モッキン	灰色灰 モッキン	素面 モッキン	灰灰 モッキン	外側・側面リメラジ、山脚等を中心に灰面を斜め且て斜面と直面がハタ ケアリ。内側は茶み付。且て側面と直面はハタケアリ。	G1廻・斜面。	

第3表 土坑・ピット一覧表

SK

遺構名	位置	直径 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
SK 1	X = 41.308 ~ 41.311, Y = -83.365 ~ -83.266	0.80	0.72	0.23	円形	円形	須恵器、土師器	
SK 2	X = 41.313 ~ 41.315, Y = -83.277 ~ -83.278	(0.89)	0.54	0.36	椭丸長方形	椭状	須恵器、土師器	
SK 3	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.273 ~ -83.276	3.10	0.47	0.33	椭丸長方形	椭状	須恵器	
SK 4	X = 41.323, Y = -83.29	0.56	0.52	0.13	円形	椭状	-	
SK 5	X = 41.325, Y = -83.290	0.61	0.61	0.16	円形	椭状	-	
SK 6	-	-	-	-	-	-	-	欠番。SE 3に変更。
SK 7	X = 41.329 ~ 41.331, Y = -83.296 ~ -83.297	1.29	1.09	0.15	方形容	椭状	須恵器、土師器、鉢沿	
SK 8	-	-	-	-	-	-	-	欠番。SI 9に統合。
SK 9	X = 41.303 ~ 41.304, Y = -83.266 ~ -83.267	0.75	0.58	0.15	橢円形	椭状	-	
SK10	X = 41.310, Y = -83.285	0.61	(0.45)	0.86	橢円形か	U字状	-	
SK11	X = 41.312, Y = -83.273 ~ -83.274	(1.04)	(0.55)	0.46	橢円形か	半円状	須恵器、土師器	
SK12	X = 41.319 ~ 41.320, Y = -83.296 ~ -83.297	1.08	0.90	0.97	橢円形	U字状	-	

SP

遺構名	位置	直径 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	断面形状	出土遺物	備考
SP 1	X = 41.323, Y = -83.265 ~ -83.266	0.35	(0.30)	0.14	円形	椭状	-	
SP 2	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.58	0.47	0.15	円形	椭状	-	
SP 3	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.38	0.32	0.09	円形	椭状	-	
SP 4	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.39	0.32	0.11	橢円形	椭状	-	
SP 5	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.37	0.30	0.24	円形	半円状	須恵器	
SP 6	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.28	0.23	0.05	橢円形	椭状	-	
SP 7	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.34	0.31	0.55	円形	U字状	須恵器、土師器、鉢沿	
SP 8	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.48	0.40	0.15	円形	椭状	-	
SP 9	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.33	0.28	0.12	円形	半円状	土師器	
SP10	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.47	0.38	0.20	円形	椭状	-	
SP11	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.27	0.23	0.07	円形	椭状	-	
SP12	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.49	0.42	0.15	円形	椭状	須恵器	
SP13	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.32	0.26	0.10	円形	椭状	-	
SP14	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.28	0.27	0.08	円形	椭状	-	
SP15	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.32	0.28	0.11	橢円形	椭状	-	
SP16	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.29	0.22	0.11	橢円形	椭状	-	
SP17	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.29	0.28	0.09	円形	椭状	-	
SP18	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.24	0.22	0.13	円形	半円状	-	
SP19	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.26	0.20	0.09	円形	椭状	-	
SP20	X = 41.312 ~ 41.314, Y = -83.265 ~ -83.266	0.33	0.27	0.66	円形	U字状	-	

VI まとめ

1 はじめに

今回の調査では堅穴建物跡 10 軒、溝跡 1 条、畠跡 2 面、井戸跡 3 基、土坑 10 基、ピット 20 基を検出した。検出の傾向としては位置的な重複は顕著だが、時期的にはあまり重複していないことが判明した。調査区の大半を搅乱が占めていたが検出した堅穴建物跡は一部を除いて完掘することができた。ここではこれらの検出した建物跡を時期毎に大別し、周辺の調査事例も含めて本遺跡の集落変遷と特徴についてまとめてみたい。

2 集落の変遷と特徴（第 34 図）

本遺跡では绳文時代の遺構は確認できなかったが、遺構外から流れ込みと見られる遺物が小片だが出土した。本遺跡周辺では里見台地上の中里見原遺跡、低地帯の中里見中川遺跡、下位段丘面の中里見根岸遺跡にて遺物が出土したが遺構の検出は少ない。やや離れるが南東の上位段丘面に所在する童尾根遺跡でも前期中葉の遺物が出土している。いずれも集落域を形成していたかは不明だが、広範囲に活動の痕跡が認められる。

弥生時代の遺構も検出されなかった。周辺では里見台地上の中里見原遺跡にて堅穴建物の床下から複数の壺や鉢を伴う再葬墓を検出している。やや離れるが南東の里見台地上に所在する下里見上ノ原・中原遺跡では中期の堅穴建物跡を検出している。これらのことから里見台地上に弥生時代の集落が存在する可能性が指摘される。

古墳時代前期も遺構は検出されなかったが、遺構外から S 字状口縁台付壺の口縁部（遺構外 - 2・3）が出土した。周辺では低地帯にある中里見中川遺跡と中川 B 区遺跡から As-C 下の水田と水路が検出されており、この地域が 4 世紀から水田として利用されていたことを示している。また里見台地上では中里見原遺跡から方形周溝墓が検出されている。埴丘側面崩落土の堆積後に As-C がレンズ状に堆積していること、遺物の特徴から 3 世紀末～4 世紀初頭の構築であると推定されている。

本遺跡での堅穴建物跡の初現は 6 世紀末・7 世紀初頭で、SI 9 の 1 軒を確認した。横敝坏と有段口縁坏が共伴している。ほぼ半分が搅乱や SI 8 との重複によって全容は把握できないが、横長長方形で南カマドである。周辺では下位段丘縁辺に里見 V 古墳群の塚崎古墳と泉福寺古墳が古墳時代後期の円墳として、また里見台地縁辺には里見 IV 古墳群の赤城山古墳が 6 世紀代の円墳として検出された。古墳時代は水田や古墳の調査例は多いが、集落の調査例は少ない。

8 世紀後半では SI II の 1 軒を確認した。大半が削平されているため不明確だが、計測可能な部分を比べると SI 9 より小型の建物跡で、ほぼ北カマドである。周辺でもこの時代から集落の調査例が増え始める。中里見原遺跡では同時期の堅穴建物跡が調査されている。

9 世紀前半では SI 2 の 1 軒を確認した。前段階より大型の横長長方形であるが、削平されたのかカマドは確認できなかった。周辺では見られないが土錘を 6 点出土した。周辺では里見台地斜面部の上里見井ノ下遺跡、中里見原遺跡から同時代の建物跡が調査されており、原遺跡では里見廐寺と想定される基壇状建物跡も検出している。井ノ下遺跡では斜面部から炭窯が 5 基検出しており、窯体を斜面に対して並行させる構築と直行させる構築の 2 種類が見られる。

9 世紀後半では SI 5・10 の 2 軒を確認した。SI 2 とほぼ同様の規模であり、横長長方形で東カマドである。SI 2 に統いて土錘を SI 5 では 4 点、SI 10 では 1 点出土した。SI 5 カマドの右側には、粘土で構築された棚状施設を確認し、同質の粘土を裸と共に底部一面に貼り付けた土坑を 2 基（SI 5 D 2・5）検出した。

10 世紀前半では SI 7 の 1 軒を確認した。前段階の建物跡と比べて規模が縮小し、ほぼ方形の東カマドである。周辺では中里見根岸遺跡と中里見中川遺跡において、As-B 下の水田耕土下から 10 世紀の建物跡が検出されることから、As-B 降下までの期間に居住域から生産域への転換が図られたことが確認されている。

10世紀中葉ではSI 4の1軒を確認した。大半を擾乱で削平されているため不明確だが、SI 7と同程度の規模で方形の東カマドである。

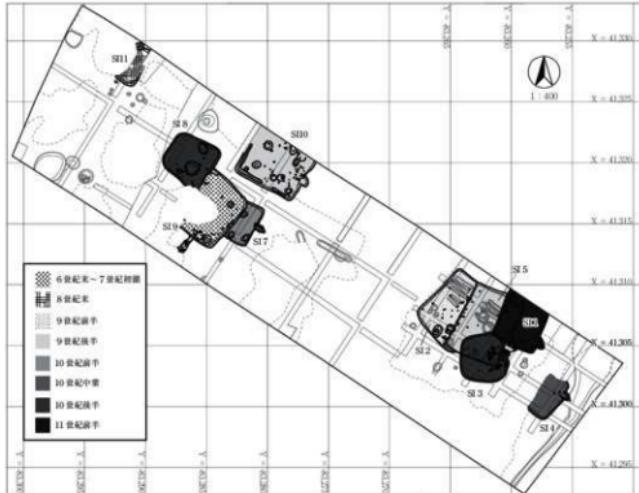
10世紀後半ではSI 3・8の2軒を確認した。ほぼ方形の東カマドであるが、SI 3は軸がやや南に傾いている。2軒の間は25m程離れているが、遺構間結合する輪花塙を出土した。SI 8では楕円溝を検出したが、鍛冶遺構と認識できる痕跡は確認できなかった。周辺では中里見中川遺跡にて鉄・鉄生産遺構が確認されている。

11世紀前半ではSI 1の1軒を確認した。前段階よりやや大きい横長方形の東カマドである。10世紀代には見られなかつた土錐を1点出土した。以降の時期は堅穴建物跡を検出しなかつた。周辺でもこの時期の堅穴建物跡は確認されていない。

11世紀後半では井戸跡としてSE 1～3を確認した。周辺では低地帯にある中里見根岸遺跡・中里見中川遺跡・根岸遺跡からはAs-B下の水田が検出されている。

12世紀以降では畠跡としてSN 1・2を検出した。覆土がAs-B混土であるため正確な年代は不明であるが、下位段丘面も生産域として利用された様子が看取される。

榛名地区の集落について概観してみたい。弥生時代から確認されてはいるが、本遺跡から東に3km程離れた鳥川左岸にある本郷台地周辺に集中している。この集落域は6世紀後半まで継続するが、7世紀になると本郷台地の集落は途切れ、西に2km程離れた左岸の十文字台地や右岸の里見台地に移動する。この事は榛名二ツ岳の噴火が大いに影響を与えていたと考えられるが、本郷台地からそう離れていない十文字台地に集落が移動した事から左岸は居住域として利用されていたと考えられる。鳥川右岸は古墳時代から低地では水田を営み、里見台地上では畠として利用されていた。その背後には豊富な森林資源のある事から生産域としての性格が見受けられる。生産域として利用されていた里見地区だが、5世紀中ごろには狭い範囲ながら集落が営まれ始める。里見地区に古墳群を構築した人々と考えられ、少しがら10世紀代まで集落が続いていく。本遺跡の集落もその一部と考えられる。9世紀になると再び本郷台地でも集落が確認されるようになり、榛名地区のはば全域に集落が営まれることとなる。



第34図 堅穴建物跡変遷図

写真図版



調査区全景（北西から）



基本土層A（南東から）



基本土層B（南東から）



基本土層C（北西から）



SI 1 全景 (北西から)



SI 1 掘り方全景 (北西から)



SI 1 カマド全景 (北西から)



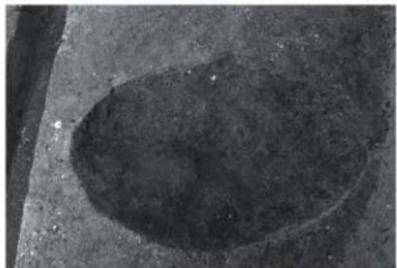
SI 1 カマド掘り方全景 (北西から)



SI 2 遺物出土状況 (北西から)



SI 2 全景 (北西から)



SI 2 D1 全景 (北西から)



SI 2 D2 全景 (南西から)



SI 3 全景 (西から)



SI 3 掘り方全景 (西から)



SI 3 カマド全景 (西から)



SI 3 カマド掘り方全景 (西から)



SI 4 全景 (北西から)



SI 4 掘り方全景 (北西から)



SI 4 カマド全景 (北西から)



SI 4 カマド掘り方全景 (北西から)



SI5 全景 (北西から)



SI5 掘り方全景 (北西から)



SI5 カマド全景 (北西から)



SI5 カマド掘り方全景 (北西から)



SI5 棚状施設 (北西から)



SI5 D1 遺物出土状況 (北西から)



SI5 D2 粘土検出状況 (北西から)



SI5 D2 粘土断面 (北西から)



SI5 D5 粘土検出状況（北西から）



SI5 D5 粘土断面（北西から）



SI7 全景（北西から）



SI7 挖り方全景（北西から）



SI7 カマド全景（北西から）



SI7 カマド石材検出全景（北西から）



SI7 P1 全景（南東から）



SI7 D1 全景（北西から）



SI 8 全景（北西から）



SI 8 挖り方全景（北西から）



SI 8 D1 全景（北西から）



SI 8 D2 全景（南西から）



SI 9 全景（北東から）



SI 9 煙道部遺物出土状況（北西から）



SI 9 カマド全景（北東から）



SI 9 カマド掘り方全景（北東から）



SI10全景（北西から）



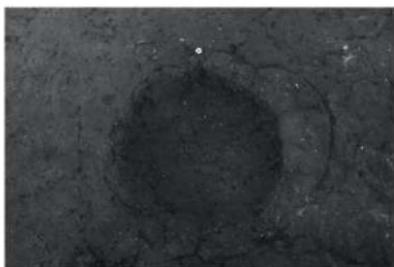
SI10カマド遺物出土状況（北西から）



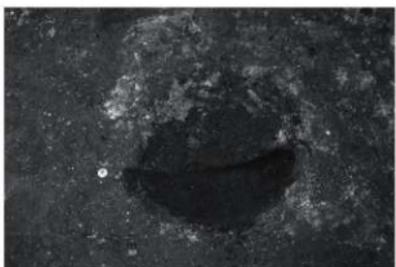
SI10カマド遺物出土状況（北西から）



SI10カマド掘り方断面（北西から）



SI10D 1 全景（北西から）



SI10D 2 全景（北西から）



SI10D 3 全景（北西から）



SI10D 4・6・7 全景（北西から）



SI11全景（南西から）



SI11カマド掘り方全景（南西から）



SD 1 断面（南西から）



SN 1・2 全景（北西から）



SD 1 全景（北東から）



SN 1 全景（北西から）



SD 2 全景（北東から）



SN 2 全景（北西から）



SE 1 断面（北東から）



SE 1 全景（南西から）



SE 2 断面（南東から）



SE 2 全景（北西から）



SE 3 石検出状況（南西から）



SE 3 全景（南西から）



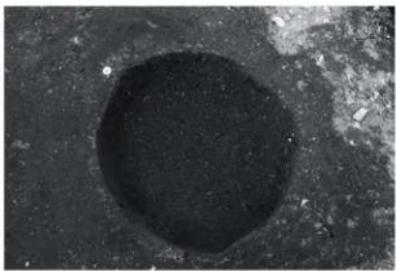
SK 1 全景（西から）



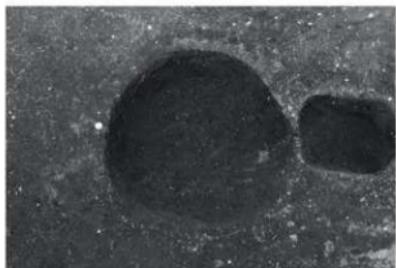
SK 2 全景（東から）



SK 3 全景（西から）



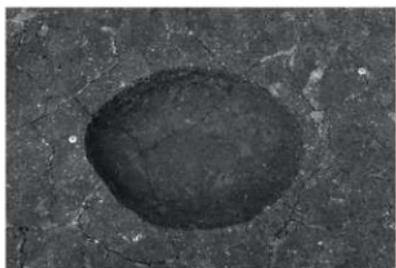
SK 4 全景（南西から）



SK 5 全景（南西から）



SK 7 全景（南西から）



SK 9 全景（北西から）



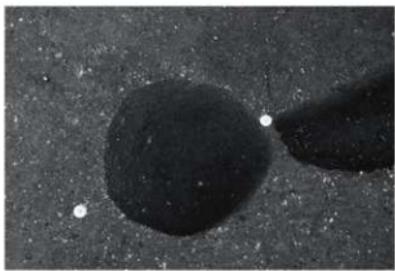
SK 10 全景（西から）



SK 11 全景（北東から）



SK 12 全景（南西から）



SP 1 全景（西から）



SP 2 全景（西から）



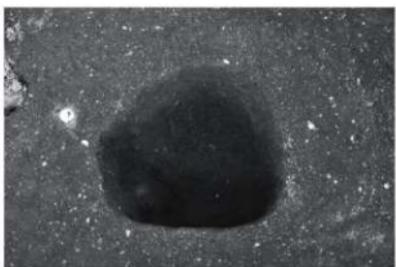
SP 1・2 全景（西から）



SP 3 全景（西から）



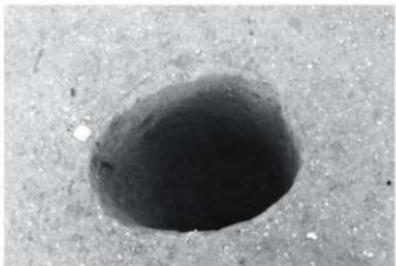
SP 4 全景（西から）



SP 5 全景（西から）



SP 6 全景（西から）



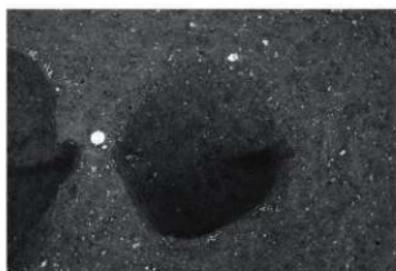
SP 7 全景（西から）



SP8全景（西から）



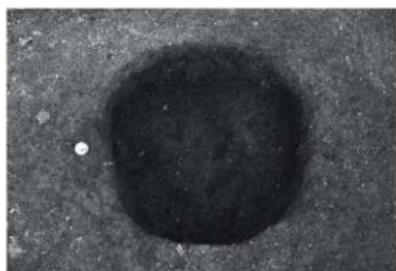
SP9全景（西から）



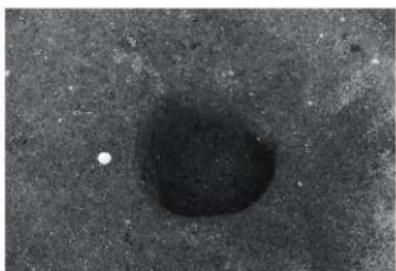
SP10全景（西から）



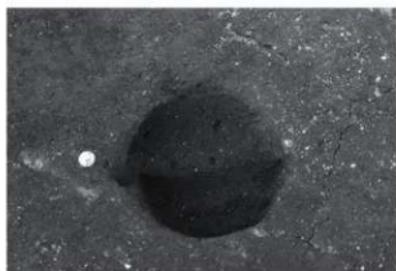
SP11全景（西から）



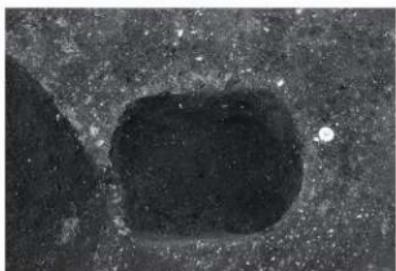
SP12全景（西から）



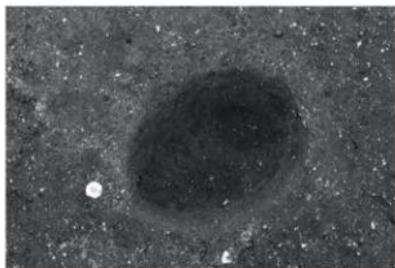
SP13全景（東から）



SP14全景（南西から）



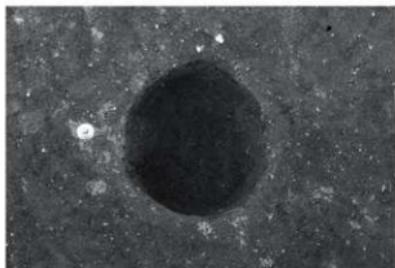
SP15全景（南西から）



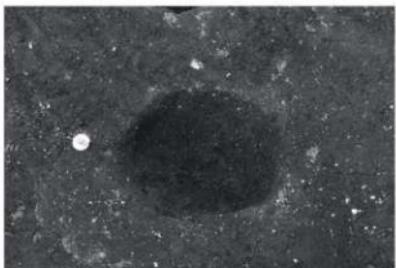
SP16全景 (南西から)



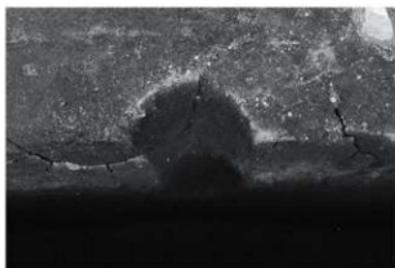
SP17全景 (南西から)



SP18全景 (南西から)



SP19全景 (南西から)



SP20全景 (北西から)



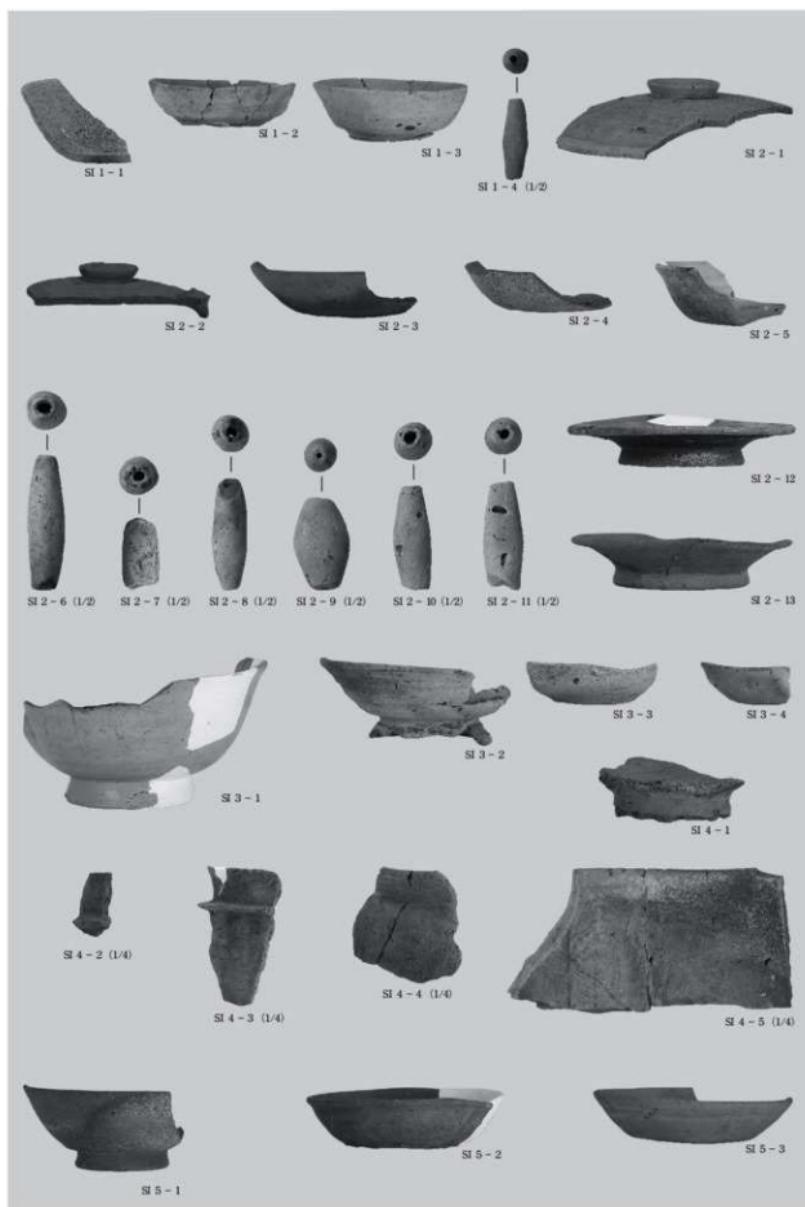
調査風景 (南東から)

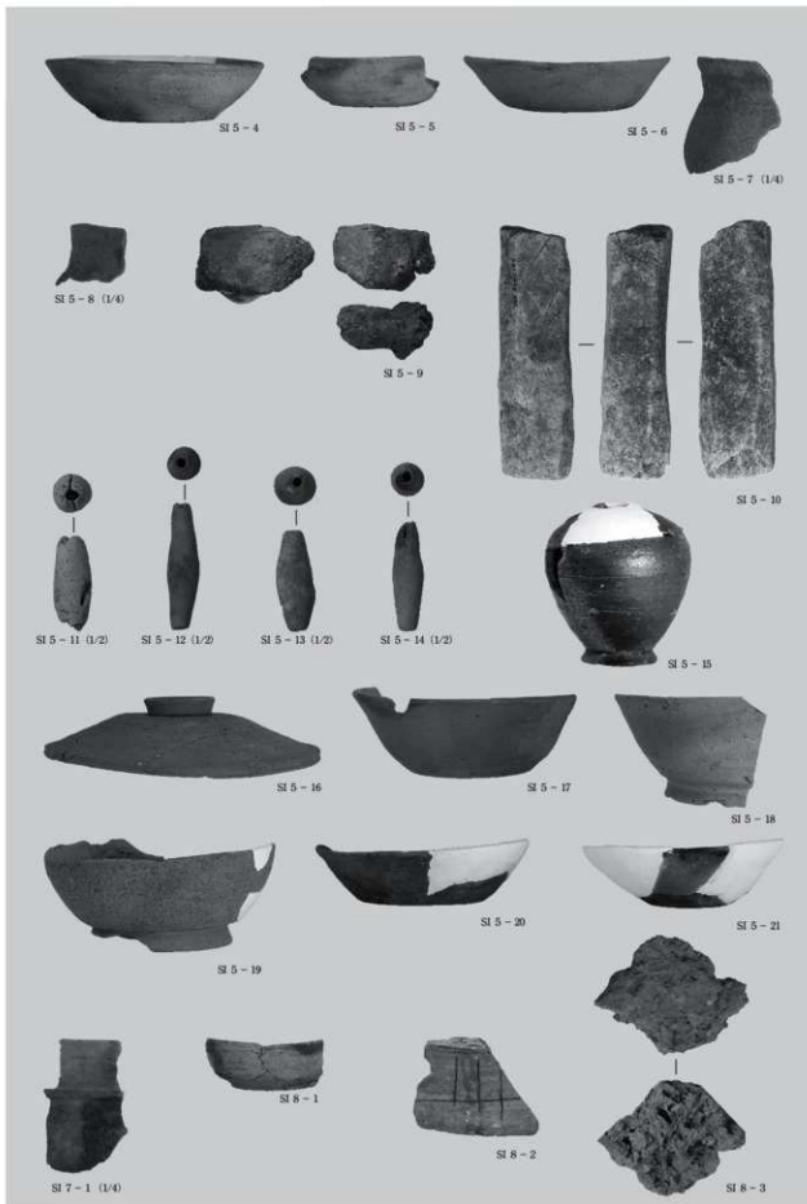


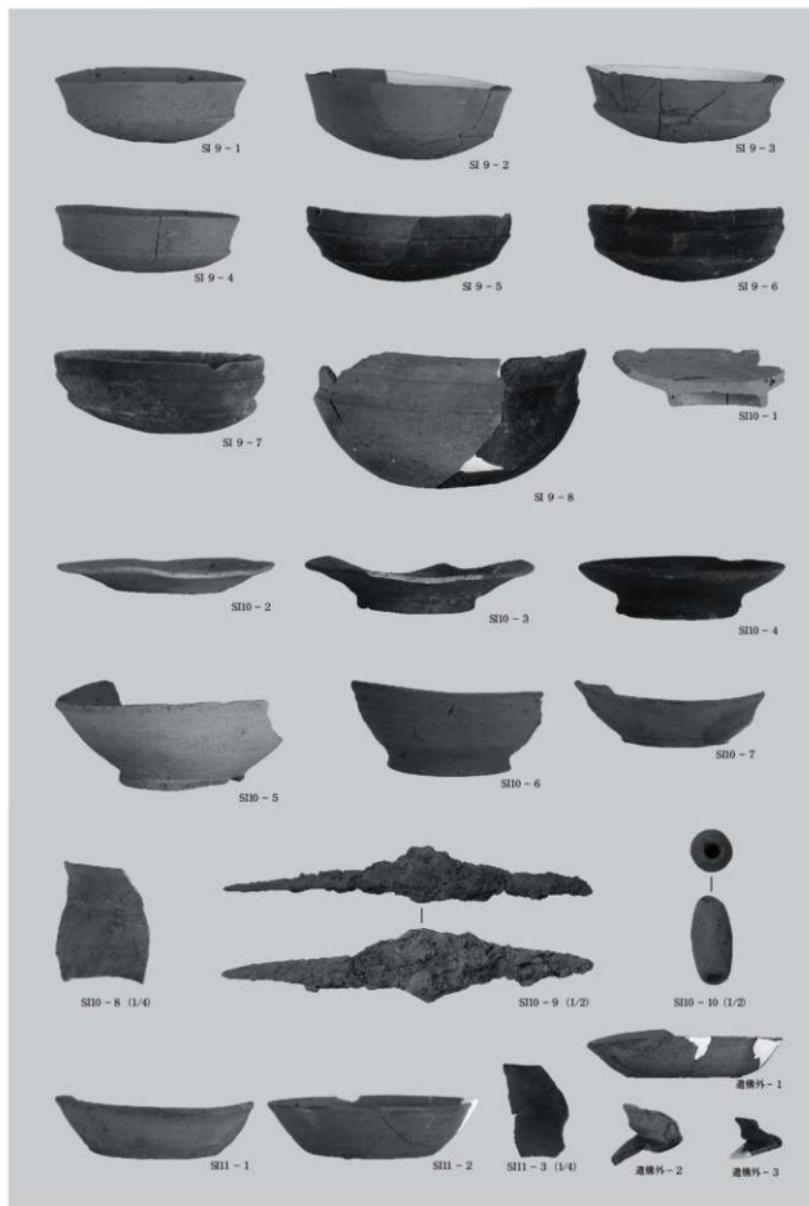
調査風景 (北西から)



調査風景 (東から)







報告書抄録

カタカナ	ナガサトミネギシイセキ5
書名	中里見根岸遺跡5
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	-
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第500集
編著者名	松村春樹
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市国領町 2-21-12
発行機関	高崎市教育委員会
発行機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町 35-1
発行年月日	2023年11月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ナガサトミネギシイセキ5 中里見根岸遺跡第5次	高崎市中里見町字 根岸173-1、174	102020	868	36°21'57"	138°54'30"	20230320 ~ 20230606	715m ²	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
			数	説明		
中里見根岸遺跡第5次	集落 生産	古墳時代	竪穴建物跡	1軒	土師器 有段口壺坏	鳥川右岸の下位段丘面に立地する、 古墳時代末から平安時代の集落。 As-B混土に覆われた畠跡。 灰釉陶器小瓶、輪花壇、有段口壺坏。
		平安時代	竪穴建物跡 溝跡 井戸跡 土坑 ピット	10軒 1条 3基 10基 20基	灰釉陶器 須恵器、土師器 鉄滓、土鍬	
		中世以降	畠跡	2面		

中里見根岸遺跡5

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023年11月22日 印刷
2023年11月30日 発行

発行

高崎市教育委員会

〒371-8501 群馬県高崎市高松町35-1
TEL 027-321-1292

編集
印刷

技研コンサル株式会社
朝日印刷工業株式会社

